

【4H1B101】解剖学		歯科衛生学科		1年前期		
		2単位	必修	講義	30時間	
教員	小原 勝					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	小原勝；歯科医師（大学病院勤務）・15年					
授業内容	医学・医療を勉強する際、最初に学ぶ学問が解剖学と生理学です。解剖学は主に人体の形・構造とその発生を学ぶ学問です。生理学は人体の働きとその仕組みと知る学問です。この授業では歯科衛生士が主に扱う口腔のみでなく、全身の構造と機能を学び、歯科衛生士が日常業務をこなすために必要な人体の構造と機能を理解することを目指しています。					
授業方法	講義を中心として、歯科衛生士が日常業務を行うために必要な人体の構造と機能を理解し、問題解決型学習と小グループ討論・発表する活動なども含めて授業を展開していきます。					
到達目標	知識・理解	歯科衛生士が日常業務を行うために必要な人体の構造と機能、特に口腔・歯の構造・役割の基本的な知識を理解できる。				
	思考・判断・表現	人体の構造と機能、特に口腔・歯の構造・役割と歯科衛生士が日常業務を結び付けながら考え、課題や問題点の原因を上げて解決の方策やそれに繋がる取り組みなどを示すことができる。				
	技能	関連する資料から人体の構造と機能、特に口腔・歯の構造・役割において日常歯科診療での課題や、現状が指摘できる。				
	関心・意欲・態度	人体の構造と機能、特に口腔・歯の構造・役割と日常歯科診療を結び付けながらそれらに関する課題に関心を持ち、積極的に考えようと努力して学修に取り組むことができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	30	10	10	-	50
	課題提出	15	5	5	5	30
	受講態度	-	-	-	10	10
	自己評価	5	5	-	-	10
合計(点)	50	20	15	15	100	
評価の特記事項	自己評価は学修成果に対する自己の評価、受講態度は学修・発表、提出等の状況とします。					
テキスト	『最新 歯科衛生士教本 人体の構造と機能1 解剖学・組織学・生理学』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社(4,620円) ISBN:978-4-263-42811-5					
参考書・教材	必要な資料は授業で配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス：解剖学とは人体の成り立ち・構造を理解する学問である事を知る。関連科目である生理学との違い・重複を理解する。（解剖学・生理学に関する自己の理解や認識を再確認して関心を高める）p1～7 [課題] (準備) これまで学んだことのある解剖学・生理学についてまとめる(1h) (復習) 生理学と解剖学の違いについて理解する(1h) (予習) 細胞・組織・臓器の違いについて考える(1h)					
2	細胞・組織・発生について理解する(細胞の構造[細胞内小器官・遺伝子]と機能、代表的な組織[上皮・支持組織]、発生のメカニズム、受精から胎児の成長までについて理解し、組織と発生について考える)p14～43 [課題] (準備) 細胞・組織・発生についてまとめる(1～2h) (復習) 代表的な組織[上皮・支持組織]について整理する(1～2h) (予習) 骨格系について考える(1～2h)					
3	骨格系について理解する(骨の構造、機能、発生を学び、頭蓋骨・体幹骨、上下肢骨について理解を深める)p46～57 [課題] (準備) 骨格系についてまとめる(1～2h) (復習) 頭蓋骨について整理する(1～2h) (予習) 筋肉系について考える(1～2h)					
4	筋肉について考える(筋の形状と分類を学び、頭部、頸部、背部筋群を知る。)P58～74 [課題] (準備) 骨格筋についてまとめる(1～2h) (復習) 頭頸部筋について整理する(1～2h) (予習) 消化管について考える(1～2h)					
5	消化と吸収について考える(口腔、食道、胃、小腸、大腸の解剖を理解する。特に口腔は、舌・唾液腺についても考える)p85～97 [課題] (準備) 消化管についてまとめる(1～2h) (復習) 口腔について整理する(1～2h) (予習) 循環について考える(1～2h)					
6	循環について考える(心臓血管の構造について学ぶ。)P109～127 [課題] (準備) 循環についてまとめる(1～2h) (復習) 心臓について整理する(1～2h) (予習) 動脈・静脈系について考える(1～2h)					
7	循環について考える(動脈、静脈、リンパ系について理解する。脈拍、静脈確保と静脈注射について学ぶ)p128～143 [課題] (準備) 動脈・静脈についてまとめる(1～2h) (復習) 体循環・肺循環について整理する(1～2h) (予習) 神経系について考える(1～2h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
8	神経系について考える（大脳など中枢神経系の構造機能を理解する。また脳神経系と主な伝導路を学ぶ）P144～159 [課題] (準備) 中枢神経についてまとめる(1～2h) (復習) 脳神経について整理する(1～2h) (予習) 末梢神経について考える(1～2h)
9	神経系について考える（末梢神経系と主な伝導路を学ぶ）P159～169 [課題] (準備) 末梢神経についてまとめる(1～2h) (復習) 自律神経について整理する(1～2h) (予習) 呼吸器系について考える(1～2h)
10	呼吸とは何かを考える（呼吸器の構成、肺の仕組みについて学ぶ）P171～181 [課題] (準備) 呼吸器についてまとめる(1～2h) (復習) 肺について整理する(1～2h) (予習) 感覚器について考える(1～2h)
11	感覚器の基本的性状について考える（皮膚、内臓の感覚、痛覚について理解し、視覚器、平衡感覚器、味覚器、嗅覚器について学ぶ）P189～204 [課題] (準備) 感覚器についてまとめる(1～2h) (復習) 皮膚感覚について整理する(1～2h) (予習) 泌尿器について考える(1～2h)
12	泌尿器について考える（腎臓・膀胱。尿路を説明できるようになる）P206～216 [課題] (準備) 泌尿器についてまとめる(1～2h) (復習) 腎臓について整理する(1～2h) (予習) 内分泌系について考える(1～2h)
13	内分泌について考える（内分泌とは何かを理解する。内分泌器官の構造と機能を学ぶ）P227～233 [課題] (準備) 内分泌組織についてまとめる(1～2h) (復習) 膵臓・甲状腺について整理する(1～2h) (予習) 生殖系について考える(1～2h)
14	生殖について考える（男性生殖器、女性生殖器について学ぶ）P234～236 [課題] (準備) 生殖器についてまとめる(1～2h) (復習) その解剖について整理する(1～2h) (予習) 解剖学全体について考える(1～2h)
15	まとめと発表（これまでの授業外での課題も活用しながら総合的なまとめを行い、解剖・組織発生学の未来に向けた方策や工夫などについて考えてきたことを発表する） [課題] (復習) 授業で学んだ全体の内容について振り返り、総合的なまとめを行う(9～10h)
時間外での学修	時間外での学修[課題]は授業の到達目標を達成するために必要となる内容ですので()の標準学修時間をめどとして確実に学修しましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	身近な環境から世界的視野まで公衆衛生学について考え、口腔衛生学を学ぶことで歯科衛生士として各自の生活や歯科診療での活動と結び付けながら積極的に授業に参加してください。 オフィスアワーはG205（G号館2階）で毎週木曜日16：20から17：50です。質問などあれば来てください。

【4H1B102】生理学		歯科衛生学科		1年前期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	南 武志・糸尾 尚浩						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	南：病院臨床検査技師・5年 糸尾：開業歯科医師・25年						
授業内容	生理学は、ヒトが生きるために必要な生体の機能を知る学問である。歯科衛生士は、顎・口腔・顔面領域のみならず、全身の機能の理解が不可欠であることから、前半では呼吸・血液循環・体温調節・食物の消化吸収・排泄・ホルモンの分泌・生殖など生体のもつ様々な機能（一般生理）について講義する。後半においては、一般生理の基礎的知識を踏まえ、口腔の機能、すなわち咬合・咀嚼・嚥下・発声・味覚・嗅覚などについて講義する。						
授業方法	講義を主体とするが、各単元毎の「確認小テスト」などを授業時間内に行う。						
到達目標	知識・理解	歯科衛生士として必要な生理学的知識を学修し理解すること。					
	関心・意欲・態度	生体の仕組みに高い関心をもち積極的に学修に臨むこと。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		90	-	-	-	90
	小テスト(受講態度)		-	-	-	10	10
	合計(点)		90	-	-	10	100
評価の特記事項							
テキスト	『最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学』全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版株式会社(4,620円) ISBN:978-4-263-42811-5 『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版株式会社(4,840円) ISBN:978-4-263-42812-2						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1(南)	細胞の基本的生理機構：細胞の構造や細胞内小器官の機能、細胞膜の透過性と電気現象について学ぶ。 [課題(復習)]細胞の基礎的生理機構について復習しまとめる (4h)						
2(南)	筋の構造と機能・運動：運動ニューロンを理解した上で、各種反射について学習する。 [課題(復習)]筋の構造と機能・運動について復習しまとめる (4h)						
3(南)	消化と吸収：消化器官である胃・小腸・大腸の機能を学ぶ。 [課題(復習)]消化と吸収について復習しまとめる (4h)						
4(南)	血液：血液を構成する細胞成分・液性成分とその機能を理解した上で、血液型について学ぶ。 [課題(復習)]血液について復習しまとめる (4h)						
5(南)	心臓の機能：心臓の拍動の調節、心電図について学習する。 [課題(復習)]心臓の機能について復習しまとめる (4h)						
6(南)	神経系の機能：神経細胞の興奮と伝導の仕組みを考え、神経系の主な伝導路を理解する。 1～5回の課題確認 [課題(復習)]神経系の機能について復習しまとめる (4h)						
7(南)	呼吸器の機能：呼吸の意義を考え、肺胞と組織におけるガス交換の仕組みを学ぶ。 [課題(復習)]呼吸器の機能について復習しまとめる (4h)						
8(南)	感覚：外部刺激により引き起こされる感覚のメカニズムを修得する。 [課題(復習)]感覚について復習しまとめる (4h)						
9(南)	排泄：排泄の意義を理解した上で、尿の生成に関わる腎臓の機能を学ぶ。 [課題(復習)]排泄について復習しまとめる (4h)						
10(南)	体温：体熱産生、体熱放散、体温調節のメカニズムについて学修する。 [課題(復習)]体温について復習しまとめる (4h)						
11(南)	内分泌、生殖：内分泌腺の種類とそのホルモンの働きを学ぶ。 6～10回の課題確認 [課題(復習)]内分泌・生殖について復習しまとめる (4h)						
12(糸尾)	歯と口腔の感覚、味覚と嗅覚：歯と口腔粘膜の感覚、味覚および嗅覚の特性と役割を学ぶ。 [課題(復習)]歯と口腔の感覚、味覚と嗅覚について復習しまとめる (4h)						
13(糸尾)	咬合と咀嚼・吸嚥：下顎運動に関わる咀嚼筋の働き、顎反射について理解する。 [課題(復習)]咬合と咀嚼・吸嚥について復習しまとめる (4h)						
14(糸尾)	嚥下と嘔吐：摂食・嚥下の5期を理解した上で、嚥下の概要と食塊の動きを学ぶ。 [課題(復習)]嚥下と嘔吐について復習しまとめる (4h)						
15(糸尾)	発声、唾液：発声機構の概要を学修する。また、唾液の性状および機能を学ぶ。 12～14回の課題確認 [課題(復習)]発声、唾液について復習しまとめる (4h)						
時間外での学修	上記の学習内容第1回～15回について内容を確実に学修しましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】						
受講学生へのメッセージ	生理学は医学（歯科医学）を学ぶ上で基礎となるものです。十分に学修して確かな知識を身につけてください。 オフィスアワー：質問等があれば、講義前後に教室で声を掛けてください。						

【4H1B103】口腔解剖学		歯科衛生学科		1年前期		
		2単位	必修	講義	30時間	
教員	小原 勝					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	小原勝；歯科医師（大学病院勤務）・15年					
授業内容	高齢化社会における歯科衛生士は全身の知識に加え、専門職として口腔の「構造」について深く理解する必要があります。発生学を含めた口腔領域の解剖を3次的にイメージできるように学修します。この授業では歯科衛生士が主に扱う口腔と歯を中心に、その構造を学び、将来の歯科衛生士業務に役立つことを目指しています。					
授業方法	講義を中心として、歯科衛生士が日常業務を行うために必要な人体の構造と機能、特に口腔・歯の構造・役割を理解し、問題解決型学修と小グループ討論・発表する活動なども含めて授業を展開していきます。					
到達目標	知識・理解	歯科衛生士が多職種連携を含めた日常業務を行うために必要な口腔・歯の構造・役割の基本的な知識を理解できる。				
	思考・判断・表現	口腔・歯の構造・役割と歯科衛生士が日常業務を結び付けながら考え、医療現場で起こり得る課題や問題点の原因を上げて解決の方策やそれに繋がる取り組みなどを示すことができる。				
	技能	関連する資料から口腔・歯の構造・役割において高齢化社会における日常歯科診療での課題や、現状が指摘できる。また歯の形、口腔機能検査を説明できる。				
	関心・意欲・態度	口腔・歯の構造・役割と歯科治療における中長期的な予防管理を結び付けながらそれらに関する課題に関心を持ち、積極的に考えようと努力して学修に取り組むことができる。小グループ討論で考えた事などを積極的に発表する。グループをまとめ、司会、書記、発表できる。				
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点					
	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	30	10	10	-	50
	課題提出	15	5	5	5	30
	受講態度	-	-	-	10	10
	自己評価	5	5	-	-	10
	合計(点)	50	20	15	15	100
評価の特記事項	自己評価は学修成果に対する自己の評価、受講態度は学修・発表、提出等の状況とします。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版(4,840円) ISBN:978-4-263-42812-2					
参考書・教材	必要な資料は授業で配付します					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス、口腔解剖学とは顔面、口腔および周囲組織の成り立ち・構造を理解する学問であることを知る（口腔解剖学で学ぶことの概要を理解する 近隣科目である口腔生理学との違い・重複部分の概要を知る 口腔解剖学・口腔生理学に関する自己の理解や認識を再確認して関心を高める）p111~vii(序章) [課題] (準備) これまで学んだことのある口腔解剖学についてまとめる(1h) (復習) 口腔解剖学と解剖学の違いについて理解する(1h) (予習) 顔面と口腔の発生について考える(1h)					
2	顔面と口腔の発生について考える（鰓弓の形成、顔面と口唇の発生について学び、口蓋、鼻腔、舌、唾液腺の形成について理解する）P2~8 [課題] (準備) 顔面と口腔の発生についてまとめる(1~2h) (復習) 鰓弓について理解する(1~2h) (予習) 口腔付近の解剖について考える(1~2h)					
3	口腔付近の解剖学について考える（口腔前庭、固有口腔などについてその解剖を学び理解する）P10~14 [課題] (準備) 口腔付近の解剖についてまとめる(1~2h) (復習) 口腔前庭・固有口腔について理解する(1~2h) (予習) 口腔を形成する骨について考える(1~2h)					
4	頭蓋・口腔を構成する骨などについてその解剖を学び理解する（特に上顎・下顎骨について理解を深める）P15~34 [課題] (準備) 頭蓋・口腔を構成する骨の解剖についてまとめる(1~2h) (復習) 上顎骨・下顎骨について理解する(1~2h) (予習) 口腔の脈管について考える(1~2h)					
5	頭頸部の筋などについて学ぶ（開口筋、閉口筋の解剖を学び、機能を理解する）P34~42 [課題] (準備) 頭頸部の筋の解剖についてまとめる(1~2h) (復習) 開口筋について理解する(1~2h) (予習) 顎関節について考える(1~2h)					
6	顎関節について学ぶ（顎関節を構成する組織について整理する）P42~45 [課題] (準備) 顎関節の解剖についてまとめる(1~2h) (復習) 顎関節の硬組織・軟組織について理解する(1~2h) (予習) 口腔の脈管について考える(1~2h)					
7	口腔の脈管について学ぶ（特に動脈系について整理する）P45~50 [課題] (準備) 口腔の脈管の解剖についてまとめる(1~2h) (復習) 口腔の栄養血管の走行について理解する(1~2h) (予習) 口腔の静脈について考える(1~2h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
8	<p>口腔の脈管について学ぶ（特に静脈系・リンパ系について整理する）P51～55</p> <p>【課題】 (準備) 口腔の静脈系の解剖についてまとめる(1～2h) (復習) 口腔の動静脈の走行について理解する(1～2h) (予習) 口腔の神経系について考える(1～2h)</p>
9	<p>口腔の神経系について学ぶ（特に脳神経について整理する）P56～64</p> <p>【課題】 (準備) 口腔の神経系の解剖についてまとめる(1～2h) (復習) 口腔に分布する脳神経について理解する(1～2h) (予習) 口腔の自律神経系について考える(1～2h)</p>
10	<p>口腔の神経系について学ぶ（特に自律神経について整理する）P64～67</p> <p>【課題】 (準備) 口腔の自律神経系の解剖についてまとめる(1～2h) (復習) 口腔に分布する交感・副交感神経について理解する(1～2h) (予習) 口腔の自律神経系について考える(1～2h)</p>
11	<p>咽頭・喉頭・食道の構造を理解する（摂食嚥下の流れを学ぶ）P105～112</p> <p>【課題】 (準備) 咽頭・喉頭・食道の解剖についてまとめる(1～2h) (復習) 嚥下について理解する(1～2h) (予習) 口腔の自律神経系について考える(1～2h)</p>
12	<p>発声について声帯と口腔から考える（発声機構を理解し、声帯の解剖を学ぶ）P124～127</p> <p>【課題】 (準備) 声帯の解剖についてまとめる(1～2h) (復習) 嚥下と声帯について理解する(1～2h) (予習) 唾液腺について考える(1～2h)</p>
13	<p>唾液腺について考える（大唾液腺と小唾液腺を理解する）P136～139</p> <p>【課題】 (準備) 唾液腺の解剖についてまとめる(1～2h) (復習) 大唾液腺・小唾液腺について理解する(1～2h) (予習) 歯の形態について考える(1～2h)</p>
14	<p>歯の形態について考える(概論)（歯の形態、機能、交換、種類、数、根管について理解し、乳歯、永久歯について整理する。）P148～154</p> <p>【課題】 (準備) 歯牙の解剖についてまとめる(1～2h) (復習) 歯の種類・形態について理解する(1～2h) (予習) 口腔解剖についてまとめる(1～2h)</p>
15	<p>まとめと発表（これまでの授業外での課題も活用しながら総合的なまとめを行い、口腔組織学の未来に向けた方策や工夫などについて考えてきたことを発表する）</p> <p>【課題(復習)】授業で学んだ全体の内容について振り返り、総合的なまとめを行う(9～11h)</p>
時間外での学修	<p>時間外での学修【課題】は授業の到達目標を達成するために必要となる内容ですので()の標準学修時間をめどとして確実に学修しましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>身近な環境から世界的視野まで口腔組織学について考え、これを学ぶことで歯科衛生士として各自の生活や歯科診療での活動と結び付けながら積極的に授業に参加してください。</p> <p>オフィスアワーはG205（G号館2階）で毎週木曜日16：20から17：50です。質問などあれば来てください。</p>

【4H1B204】口腔解剖学		歯科衛生学科		1年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	海原 康孝・小原 勝					
資格・制限等	特になし					
実務家教員						
授業内容	口腔解剖学 では、前半に『組織発生学』を、後半は『歯型彫刻実習』を学ぶ。『組織発生学』では歯や口腔を形成する組織の微細構造や成熟する過程について学ぶ。『歯型彫刻実習』では歯の形態の特徴と解剖学的構造について学ぶ。授業に発表や討論も取り入れる。					
授業方法	『組織発生学』の講義では、スライドや配付資料などを使用した講義を行う。『歯型彫刻実習』は2名の教員が巡回形式で指導を行い、完成した製作物を提出する。					
到達目標	知識・理解	受精から胎児の成長と発育、顔面と口腔などヒトの成り立ち、ヒトの組織の種類、細胞的構造、臓器におけるそれぞれの役割などについて、基本的な知識を修得できる。 歯の硬組織や歯髄、歯周組織の構造や各部の名称、内容を理解し、それらを歯科疾患の成り立ち、進行状況、処置方法と結びつけ、学修に取り組むことができる。				
	技能	歯のスケッチと彫刻実習で、個々の歯の形態の特徴、各部の名称を理解する。また、彫刻により器具の使い方や指先の動かし方などを修得する。				
	関心・意欲・態度	歯科疾患に結びつけ学修に取り組むことができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	60	-	-	-	60
	歯型彫刻実習、彫刻(2作品)	-	-	30	-	30
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	60	-	30	10	100
評価の特記事項						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』医歯薬出版(4,840円) ISBN:978-4-263-42812-2					
参考書・教材	必要な資料は適宜紹介または配付する。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1 (海原)	【前半】『組織発生学』講義 歯および歯周組織の構造と機能(1) (エナメル質の概要・構造、存在する構造物などについて学ぶ。) [課題(復習)]エナメル質の構造と機能を復習し、まとめる。(1h)					
2 (海原)	歯および歯周組織の構造と機能(2) (象牙質、歯髄複合体やセメント質の概要・構造、存在する構造物などについて学ぶ。) [課題(復習)]象牙質、歯髄複合体、セメント質の構造と機能を復習し、まとめる。(1h)					
3 (海原)	歯および歯周組織の構造と機能(3) (歯根膜や歯槽骨の概要・構造、存在する構造物などについて学ぶ。) [課題(復習)]歯根膜、歯槽骨の構造と機能を復習し、まとめる。(1h)					
4 (海原)	歯および歯周組織の構造と機能(4) (歯肉や歯周組織、口腔粘膜の概要・構造、存在する構造物などについて学ぶ。) [課題(復習)]歯肉、歯周組織、口腔粘膜の構造と機能を復習し、まとめる。(1h)					
5 (海原)	細胞と組織細胞 (細胞の構造と機能、細胞の一生、組織の種類とその構成などについて学ぶ。) [課題(復習)]細胞と組織の構造および機能を復習し、まとめる。(1h)					
6 (海原)	発生について (精子・卵子の発生、受精・着床、胚葉形成、胎児の成長・発育などについて学ぶ。) [課題(復習)]ヒトの発生・成長・発育について復習し、まとめる。(1h)					
7 (海原)	顔面と口腔の発生 (鰓弓、顔面と口唇、口蓋と鼻腔、舌、腺の形成などについて学ぶ。) [課題(復習)]鰓弓および顔面、口唇、口蓋と鼻腔、舌、腺の形成について復習し、まとめる。(1h)					
8 (海原)	歯と歯周組織の発生 (先行歯、代生歯および加生歯の発生などについて学ぶ。1~7の課題の確認も行う。) [課題(復習)]先行歯、代生歯、加生歯について復習し、まとめる。(1h)					
9 (海原・小原)	【後半】『歯型彫刻実習』実習(実習室G201) 上顎右側中切歯と下顎右側第一大臼歯の模型を観察しながらスケッチする展開図を作成し、歯の特徴の理解を深める。1~8の課題の確認を行う。 [課題(復習)]展開図で歯の形態を把握し、歯の特徴をまとめる。(1h)					
10 (海原・小原)	上顎右側中切歯の模型を用い、各歯面から歯の形態・特徴を把握する。彫刻により器具の扱いを修得する。 [課題(復習)]上顎右側中切歯の形態・特徴についてまとめ、復習する。(1h)					
11 (海原・小原)	上顎右側中切歯の形態的特徴を把握し、彫刻を行う。 [課題(復習)]上顎右側中切歯の彫刻を行う。(1h)					
12 (海原・小原)	彫刻を完成し、細部にわたり上顎右側中切歯の形態について学ぶ。9~11の課題について確認する。 [課題(復習)]上顎右側中切歯の特徴についてまとめ、彫刻を仕上げる。(1h)					
13 (海原・小原)	下顎右側第一大臼歯の模型を用い、各歯面から観察した歯の形態・特徴を把握する。石膏棒を彫刻することで器具の取り扱いを修得する。 [課題(復習)]下顎右側第一大臼歯の形態・特徴についてまとめ、復習する。(1h)					
14 (海原・小原)	下顎右側第一大臼歯の彫刻を仕上げに向け、細部に至る形態的特徴について学ぶ。 [課題(復習)]下顎右側第一大臼歯の彫刻を行う。(1h)					
15 (海原・小原)	細かい作業により彫刻を完成し、下顎右側第一大臼歯の形態の細部にわたる特徴について学ぶ。12, 13, 14の課題について確認する。 [課題(復習)]下顎右側第一大臼歯の形態の特徴についてまとめ、彫刻を仕上げる。(1h)					

時間外での学修	講義の内容をよく復習し、理解するようにしましょう。理解できないことや疑問点があれば質問して下さい。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	『組織発生学』は肉眼視できない部分を学ぶ難しさがあります。教科書の中の多くのイラストや写真の観察が大切です。テキストの各章の初めにある「到達目標」を意識して学修して下さい。オフィスアワーは毎週木曜日の5時限目16:20～17:50です。研究室（海原G206、小原G205：G号館2F）に来て下さい。

【4H1B105】病理学		歯科衛生学科		1年前期		
		2単位	必修	講義	30時間	
教員	石川 隆義					
資格・制限等	特になし					
実務家教員						
授業内容	病理学は病気の本態（原因・成り立ち・経過および結果）を学ぶ科目であり、基礎医学として位置付けられているが、臨床（予防や治療）と密接に結びつく重要な科目である。先ず病理学総論では、全身の病変を対象として、病気の成り立ちを中心に講義をし、後半では歯科衛生士の専門領域である口腔の病変についてより詳しく解説する。 本授業では、全身や特に口腔の病気の成り立ちと原因の理解を目指し、臨床領域の授業科目が理解できるための基礎的知識をアクティブ・ラーニングを活用しながら身につける授業とする。					
授業方法	前半では病理学総論により病気の本態について学び、後半の口腔病理学でう蝕と歯周疾患の病理学的背景を深く理解し、口腔顔面領域に発生する疾患の基本的病理学的知識をレポートや発表活動を通して修得していく授業展開とする。					
到達目標	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病気の原因について述べるができる。 ・ 退行性病変、進行性病変、循環障害について説明ができる。 ・ 炎症性病変や免疫反応、遺伝性疾患について説明ができる。 ・ 歯の発育異常や損傷、付着物について説明ができる。 ・ 歯牙硬組織、歯髄、歯周組織の病変について説明ができる。 ・ 口腔の発育異常、粘膜疾患、嚢胞や腫瘍について説明ができる。 ・ 顎骨の病変、唾液腺疾患、加齢に伴う口腔病変、全身疾患と口腔病変について説明ができる。 				
	関心・意欲・態度	病理学全般における疑問点を、自己学修によって解決ができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	80	-	-	-	80
	受講態度	-	-	-	20	20
	合計(点)	80	-	-	20	100
評価の特記事項	試験は筆記試験（定期試験時）で行います。受講態度は学修への取組状況によって評価します。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学』仙波伊知郎、他 医歯薬出版(4,180円) ISBN:978-4-263-42813-9					
参考書・教材	二階宏昌/他編 『歯学生のための病理学 第2版 一般病理編』医歯薬出版 二階宏昌/他編 『歯学生のための病理学 第2版 口腔病理編』医歯薬出版					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	病理学とは、病因論：先ず病理学序論を述べ、細胞と組織について解説し、病気の原因について内因と外因について分けて講義を行なう。 [課題（予習）]学修内容を予習し、病気の原因についてまとめる。(4h)					
2	遺伝性疾患、奇形：染色体異常と遺伝子病及び先天異常について述べる。 [課題（予習）]学修内容を予習し、遺伝性疾患についてまとめる。(4h)					
3	循環障害：循環血液量の障害について述べ、特に閉塞性循環障害の血栓症、播種性血管内凝固、塞栓症、梗塞等について詳述する。 [課題（予習）]学修内容を予習し、循環障害についてまとめる。(4h)					
4	代謝障害：退行性病変の変性・萎縮・壊死、また代謝病や内分泌障害について述べる。 [課題（予習）]学修内容を予習し、退行性病変について分類整理してまとめる。(4h)					
5	増殖と修復：病因に対して細胞や組織が積極的に反応する進行性病変について解説する。特に、肉芽組織、創傷治癒、器質化について詳述する。 [課題（予習）]学修内容を予習し、進行性病変について分類整理してまとめる。(4h)					
6	炎症、感染症：炎症の症状、病変、原因、種類、経過と転帰について解説した後、病原微生物と炎症反応にも言及する。 [課題（予習）]学修内容を予習し、急性炎症、慢性炎症に分類してまとめる。(4h)					
7	免疫、免疫異常：免疫反応、アレルギー、自己免疫疾患、移植免疫等について述べる。 1-7の一般病理の課題の確認のため、レポートを完成させ発表活動の後に提出させる。 [課題（予習）]学修内容を予習し、特にアレルギー（ - 型）と自己免疫疾患の種類についてまとめる。(4h)					
8	口腔病理学とは、歯の発育異常：口腔病理学の概説を行なった後、歯の大きさ、形態、数、構造、萌出、位置、咬合の異常について述べる。 [課題（予習）]学修内容を予習し、歯の形成時期と発育異常との関連についてまとめる。(4h)					
9	歯の損傷と付着物：歯の機械的および化学的損傷、歯の付着物・沈着物について述べる。 [課題（予習）]学修内容を予習し、特に咬耗症、摩耗症、外傷についてまとめる。(4h)					
10	う蝕：う蝕の病因、誘因について解説した後、エナメル質う蝕、象牙質う蝕、セメント質う蝕の病理について詳述する。 [課題（予習）]学修内容を予習し、特にう蝕の病因と分類についてまとめる。(4h)					
11	象牙質・歯髄複合体および根尖部歯周組織の病変：歯髄炎の臨床病理所見や象牙質・歯髄複合体の創傷治癒、根尖性歯周炎について解説する。 [課題（予習）]学修内容を予習し、歯髄炎と根尖性歯周炎をそれぞれ急性期・慢性期についてまとめる。(4h)					
12	辺縁部歯周組織の病変、歯科治療に伴う治癒の病理：辺縁性歯周炎の原因や病理所見、歯周治療の病理等について解説する。 [課題（予習）]学修内容を予習し、歯周炎と歯肉炎の病因と発生機序についてまとめる。(4h)					
13	口腔粘膜疾患：口腔粘膜に生じる病変について述べる。 [課題（予習）]学修内容を予習し、口腔粘膜病変について分類・整理してまとめる。(4h)					
14	口腔癌、口腔の嚢胞、口腔の腫瘍：口腔に発生する癌の病因や病理組織像、歯源性嚢胞、非歯源性嚢胞、歯源性腫瘍、非歯源性腫瘍について述べる。 [課題（予習）]学修内容を予習し、口腔に発生する腫瘍と嚢胞についてまとめる。(4h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
15	顎骨の病変、唾液腺疾患、口腔の奇形、加齢に伴う口腔病変、全身疾患と口腔病変について述べる。 8 - 1 5 の口腔病理の課題の確認のため、レポートを完成させ発表活動の後に提出させる。 [課題(予習)]学修内容を予習し、特に全身の病気と口腔に表れる病変についてまとめる。(4h)
時間外での学修	各回の授業のテーマに関してテキスト等で予習を行い、授業後は配付プリントやテキスト等を復習し理解を深める事。わからない点、疑問点は図書館等で調べ解決への努力をしてください。自分で調べても問題解決できない場合は、石川研究室(G204)まで問題点を整理して聞きにきてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	病理学は臨床に直接的に関わりのある総合的な基礎科目である。従って、患者に直接医療行為を行う歯科衛生士にとり大変重要な科目と認識し予習・復習をして授業に臨む事。 オフィスアワーはG204で、毎週木曜日の5時限目16：20から17：30です。

【4H1B106】微生物学		歯科衛生学科		1年前期		
		2単位	必修	講義	30時間	
教員	小原 勝					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	歯科医師（大学病院勤務）・15年					
授業内容	う蝕と歯周病など口腔疾患の多くは微生物によって引き起こされる感染症であり、その発症や進行には生体の防御機構が深く関与しています。また、医療現場に従事する歯科衛生士にとって標準予防策の知識は必要不可欠なものです。授業や自己学修を通して微生物学に対する理解を深め、今後の臨床に繋げることを目標とします。					
授業方法	主に講義中心の授業になりますが、より理解しやすいように演習も取り入れた形式で行います。毎回、授業内容に関する小テストを行います。問題解決型学修と小グループ討論で考えた事などを発表する活動なども含めて講義を展開していきます。					
到達目標	知識・理解	歯科衛生士が多職種連携を含めた日常業務を行うために必要な微生物・免疫の基本的な知識を理解できる。				
	思考・判断・表現	口腔微生物と歯科衛生士が日常業務を結び付けながら考え、医療現場で起こり得る課題や問題点の原因を上げて解決の方策やそれに繋がる取り組みなどを示すことができる。				
	技能	関連する資料から口腔感染症において原因微生物とその対策が説明できる。また日常歯科診療での課題や、現状が指摘できる。				
	関心・意欲・態度	口腔微生物と歯科治療を結び付けながらそれらに関する課題に関心を持ち、積極的に考えようと努力して学修に取り組むことができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	30	10	10	-	50
	課題提出	15	5	5	5	30
	受講態度	-	-	-	10	10
	自己評価	5	5	-	-	10
	合計(点)	50	20	15	15	100
評価の特記事項	自己評価は学修成果に対する自己の評価、受講態度は学修・発表、提出等の状況とします。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 2 微生物学』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版(3,300円)ISBN:978-4-263-42814-6					
参考書・教材	参考書・教材 参考資料を適宜配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス；疾病と微生物（感染と感染症）、微生物の分類について学ぶ。p1～15 [課題] (準備) 微生物（ウイルス、細菌、真菌、原虫）についてまとめる（1h） (復習) 今まで聞いたことのある微生物感染症を列挙する（1h） (予習) 細菌の性状について考える（1h）					
2	細菌の性状と病原性について学ぶ。p16～27 [課題] (準備) グラム陽性、陰性菌の性状についてまとめる（1～2h） (復習) 細菌の形態を理解する（1～2h） (予習) 主なグラム陽性菌、陰性菌について考える（1～2h）					
3	主な病原性細菌（グラム陽性球菌・グラム陽性桿菌・グラム陰性球菌・グラム陰性桿菌）について学ぶ。p28～42 [課題] (準備) 主なグラム陽性、陰性菌の特徴・病原性についてまとめる（1～2h） (復習) 細胞壁、外膜の有無について理解する（1～2h） (予習) 細菌とウイルスの中間に位置する細菌について考える（1～2h）					
4	マイコプラズマ・（スピロヘータ）・リケッチア・クラミジアについて学ぶ。p43～48 [課題] (準備) 細菌とウイルスの中間に位置する細菌についてまとめる（1～2h） (復習) 偏性寄生性について理解する（1～2h） (予習) ウイルスについて考える（1～2h）					
5	ウイルスの性状について学ぶ。p48～69 [課題] (準備) ウイルスの特徴についてまとめる（1～2h） (復習) ウイルス感染症について理解する（1～2h） (予習) ウイルスについて考える（1～2h）					
6	ウイルス感染症について学ぶ。1～5回の課題確認 p1～69 [課題] (準備) 細菌、ウイルスの特徴についてまとめる（1～2h） (復習) 細菌、ウイルス感染症について理解する（1～2h） (予習) 真菌、原虫について考える（1～2h）					
7	その他の微生物（真菌・原虫）について学ぶ。p70～73 [課題] (準備) 真菌・原虫の特徴についてまとめる（1～2h） (復習) 真菌・原虫感染症について理解する（1～2h） (予習) 免疫について考える（1～2h）					
8	宿主防御機構について学ぶ。p74～91 [課題] (準備) 免疫の特徴についてまとめる（1～2h） (復習) ワクチンについて理解する（1～2h） (予習) 液性免疫、細胞性免疫について考える（1～2h）					

内容	
実施回	授業内容・目標
9	液性免疫・細胞性免疫について学ぶ。 p 91 ~ 109 [課題] (準備) 液性免疫・細胞性免疫の特徴についてまとめる (1~2h) (復習) アレルギーについて理解する (1~2h) (予習) 口腔細菌について考える (1~2h)
10	口腔微生物学 (口腔細菌叢とデンタルプラーク形成機序) について学ぶ。 p 110 ~ 121 [課題] (準備) 口腔細菌叢の特徴についてまとめる (1~2h) (復習) デンタルプラークについて理解する (1~2h) (予習) う蝕について考える (1~2h)
11	口腔感染症 1 (う蝕と歯内感染症) について学ぶ。 p 123 ~ 130 [課題] (準備) う蝕の特徴についてまとめる (1~2h) (復習) 歯内感染症について理解する (1~2h) (予習) 歯周病について考える (1~2h)
12	口腔感染症 2 (歯周病とその他の口腔感染症) について学ぶ。 p 130 ~ 143 [課題] (準備) 歯周病の特徴についてまとめる (1~2h) (復習) その他の口腔感染症について理解する (1~2h) (予習) 歯周病について考える (1~2h)
13	微生物感染の化学療法について学ぶ。 p 144 ~ 153 [課題] (準備) 微生物感染の化学療法の特徴についてまとめる (1~2h) (復習) 主な薬剤名について理解する (1~2h) (予習) 院内感染について考える (1~2h)
14	院内感染対策と滅菌・消毒について学ぶ。 11~14回の課題確認 p 155 ~ 166 [課題] (準備) 院内感染対策の特徴についてまとめる (1~2h) (復習) 主な滅菌・消毒について理解する (1~2h) (予習) 細菌培養、観察について考える (1~2h)
15	細菌培養、顕微鏡観察について学ぶ。まとめと発表 (これまでの授業外での課題も活用しながら総合的なまとめを行い、口腔組織学の未来に向けた方策や工夫などについて考えてきたことを発表する)。 p 167 ~ 177 [課題(復習)] 授業で学んだ全体の内容について振り返り、総合的なまとめを行う (1~18h)
時間外での学修	時間外での学修[課題]は授業の到達目標を達成するために必要をなる内容ですので () の標準学修時間をめどとして確実に学修しましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	身近な環境から世界的視野まで口腔組織学について考え、これを学ぶことで歯科衛生士として各自の生活や歯科診療での活動と結び付けながら積極的に授業に参加してください。 オフィスアワーはG205 (G号館2階) で毎週木曜日16:20から17:50です。質問などあれば来てください。

【4H1B107】薬理学		歯科衛生学科		1年後期		
		2単位	必修	講義	30時間	
教員	坂井 隆之					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	大学病院歯科医師10年、歯科大学基礎系教員5年、開業歯科医師11年など					
授業内容	薬物は疾病の原因を取り除いたり、症状を和らげることを目的に使用される。一方で、不適切な使用により副作用や中等等の有害事象を引き起こすことがある。医療スタッフである歯科衛生士には、薬物の作用およびそのメカニズム、体内での薬物の振る舞い、副作用など有害事象を理解したうえで法的規制を含む薬物の適正な取り扱いが求められる。授業では、まず総論として、薬物の作用機序の分類、体内での振る舞い、有害事象、薬物管理、製剤の扱い、服薬指導等について学修する。さらに各論では、臨床に活用されている薬物について作用機序、分類、副作用等について学ぶ。					
授業方法	教科書の内容を中心に最新の内容を加えながら講義を行う。 講義の一環として映像素材の視聴を行う。					
到達目標	知識・理解	総論として、薬物の作用機序の分類、体内での振る舞い、有害事象、薬物管理、製剤の扱い、服薬指導等についての知識をえる。さらに各論では、臨床に活用されている薬物について作用機序、分類、副作用等について学ぶ。				
	関心・意欲・態度	医療人として、自己管理ができ、職業的使命感を持ち自らが関心と意欲を持って地域との連携や社会貢献を推進して行ける。				
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	90	-	-	-	90
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	90	-	-	10	100
評価の特記事項						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 薬理学 第2版』医歯薬出版(3,520円) ISBN:978-4-263-42860-3					
参考書・教材	授業ごとに必要な資料を配付する。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	総論1 薬物の定義と分類：療法による薬物の分類、薬理作用の様式・分類、薬物の用量と作用、薬理作用のメカニズムを理解する。 [課題(準備)]薬物の作用様式、作用メカニズム、用量と作用の関係についてまとめる。(4h)					
2	総論2 薬物の全体の通過様式、薬物動態および投与方法との関係について学ぶ。 [課題(復習)]薬物の吸収、代謝、排泄についてまとめる。(4h)					
3	総論3 薬効に影響する因子・生体の感受性、薬物の反復使用や併用効果、薬物の副作用、有害作用について学ぶ。 [課題(復習)]薬効に影響する因子、併用効果、副作用についてまとめる。(4h)					
4	総論4 歯科領域における薬物の副作用について学ぶ。服薬指導について学ぶ。 [課題(復習)]口腔領域に発現する副作用についてまとめる。(4h)					
5	総論5 薬物と医薬品に関する法律、法律による薬物の分類を理解し、薬物の保存方法を考える。薬物の取り扱いや医薬品としての剤形について学ぶ。 [課題(復習)]医薬品の剤形、医薬品に関する法律、麻薬取り締まり法などについてまとめる。(4h)					
6	各論1 中枢神経系と薬：中枢神経系に作用する薬物として全身麻酔薬、向精神薬、麻薬性鎮痛薬、中枢神経興奮薬について学ぶ。 [課題(復習)]全身麻酔薬、麻薬性鎮痛薬についてまとめる。(4h)					
7	各論2 末梢神経系と薬：末梢神経系の構造と機能について復習し、自律神経作用薬/拮抗薬について学ぶ。 [課題(復習)]自律神経の構造と機能、自律神経作用薬/拮抗薬の作用についてまとめる。(4h)					
8	各論3 局所麻酔薬：感覚神経系の構造と機能について復習し、局所麻酔薬について学ぶ。 1~7回の課題確認 [課題(復習)]感覚神経の構造と機能、局所麻酔薬の作用についてまとめる。(4h)					
9	各論4 循環・呼吸器系と薬：循環系に作用する薬物と呼吸器系に作用する薬物について学ぶ。 [課題(復習)]降圧薬、狭心症治療薬についてまとめる。(4h)					
10	各論5 血液と薬：血液凝固のメカニズムを復習し、止血薬、抗血栓薬、抗貧血薬について学ぶ。 [課題(復習)]血液凝固のメカニズムと抗血栓薬、止血薬の作用点についてまとめる。(4h)					
11	各論6 炎症と薬：炎症について復習し、抗炎症薬の分類・作用点・副作用について学ぶ。 [課題(復習)]抗炎症薬、鎮痛薬、解熱鎮痛薬についてまとめる。(4h)					
12	各論7 感染症と薬：感染について復習し、抗感染症薬の作用機序について学び、分類・代表的薬物・副作用を理解する。 [課題(復習)]感染症に関わる代表的微生物についてまとめる。抗感染症薬の作用機序、分類、代表的薬物、副作用についてまとめる。(4h)					
13	各論8 消毒薬：消毒薬の分類と作用機序について学ぶ。 [課題(復習)]MRSA、芽胞、HBV、HIVに効果のある消毒薬についてまとめる。(4h)					
14	各論9 1) 免疫と薬：免疫系に作用する薬物の作用機序・分類・副作用について知る。 2) ビタミン・ホルモンと薬：主なビタミンの作用と欠乏症、ホルモンの作用について学ぶ。 [課題(復習)]免疫の仕組み、アレルギーについてまとめる。ビタミン、ホルモンの作用と欠乏症についてまとめる。(4h)					
15	各論10 悪性腫瘍と薬：悪性腫瘍の生物学的特徴について復習し、抗悪性腫瘍薬の作用機序・分類・副作用について知る。8~14回の課題確認 [課題(復習)]抗悪性腫瘍薬の副作用についてまとめる。(4h)					
時間外での学修	各回の授業内容について調べまとめておく。身の回りにある薬物、製剤について作用機序、副作用、相互作用などを調べる。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】					

受講学生への
メッセージ

学修効果を高めるために、解剖学、生理学、微生物学、病理学で修得した基本的知識を整理しておくことが必要である。また身の回りにある薬物について興味を持ち作用機序、副作用、相互作用等を調べる姿勢が望まれる。オフィスアワーは、教室にて授業終了後です。

【4H1B108】栄養生化学		歯科衛生学科		1年後期		
		2単位	必修	講義	30時間	
教員	久本 たき子・小原 勝					
資格・制限等	特になし					
実務家教員						
授業内容	「栄養生化学」とよばれる領域が栄養学において主要な位置を占める傾向にある。この科目は、食生活指導をするうえで必要不可欠であり、基礎知識を十分に理解することが重要である。将来、歯科保健指導が実践できるように基礎的な用語を確実に修得することがねらいである。					
授業方法	主に講義中心の授業になりますが、より理解しやすいように演習も取り入れた形式で行います。					
到達目標	知識・理解	1. 歯及び口腔組織の構成成分、機能について理解する。 2. 骨、歯の石灰化などについて理解する。 3. 唾液の生化学的特性を理解する。 4. 生体の生命活動を分子レベルにて理解する。 5. 日本人の食事摂取基準を説明できる。 6. 五大栄養素各々の栄養的意味を理解する。 7. 食生活と健康について理解する。				
	関心・意欲・態度	主体的に復習等を行い、毎回の授業で自己の到達度を確認するため自己評価を行う。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	80	-	-	-	80
	小テスト(久本)	5	-	-	-	5
	受講態度	-	-	-	5	5
	自己評価	-	-	-	10	10
	合計(点)	85	-	-	15	100
評価の特記事項	自己評価は学修成果に対する自己の評価です。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版株式会社(3,850円) ISBN:978-4-263-42819-1 『七訂食品成分表2020』香川明夫監修 女子栄養大学出版部(1,540円) ISBN:978-4-7895-1018-9					
参考書・教材	講義資料は、プリントを配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1(久本)	栄養学(1) 栄養の基礎知識 栄養素の消化吸収について学ぶ。 [課題(復習)] 消化作用の種類や仕組み、栄養素の役割をまとめる。(4h)					
2(久本)	栄養学(2) 基礎代謝と日本人の食事摂取基準について学び、消費エネルギー量等を求める演習を行う。 糖質(炭水化物)の栄養的意味について学ぶ。 [課題(復習)] 推定エネルギー必要量と脂肪エネルギー比率、糖質の種類についてまとめる。(4h)					
3(久本)	栄養学(3) タンパク質・脂質の栄養的意味について学ぶ。 [課題(復習)] タンパク質・脂質の種類についてまとめる。(4h)					
4(久本)	1回~3回までの課題を確認する。 栄養学(4) ビタミン・ミネラル・水・食物繊維の栄養的意味について学ぶ。 [課題(復習)] ビタミン・ミネラルの種類についてまとめる。(4h)					
5(久本)	栄養学(5) 食生活と健康 食品の安全性(食品添加物・保健機能食品)について学ぶ。 [課題(復習・他)] 食品添加物の種類と保健機能食品の根拠法について調べる。(4h)					
6(久本)	栄養学(6) 食生活と健康 望ましい食生活(国民健康・栄養調査・食育基本法)について学ぶ。 [課題(復習・他)] 国民健康・栄養調査・食育基本法について調べる。(4h)					
7(久本)	食べ物と健康について学ぶ。(1)~(6)の課題(復習)について確認する。 栄養学(7) 栄養学(1)~(6)までの重要な点を知識・整理する。 [課題(復習)] 基礎代謝・日本人の食事摂取基準、五大栄養素の栄養的意味について復習する。(4~6h)					
8(久本)	1~7回の復習と学修到達度の知識を整理し、確認する。 [課題(復習・他)] 学修到達度を確認し自己学修を振り返り、知識不足を復習する。(4h)					
9(小原)	生命活動の概要(1) 生命の基本である細胞の構造や細胞小器官の働きを理解する。 p6~22 [課題(準備)] 細胞の構造や細胞小器官の働きをまとめる。(4h)					
10(小原)	生命活動の概要(2) 細胞内で起こる代謝について理解する。 p23~37					
11(小原)	生命活動の概要(3) 生体における恒常性の維持について理解する。 p38~49 [課題(予習)] 歯と歯周組織の生化学について予習する(4h)					
12(小原)	9回~11回までの課題を確認する。 歯・口の生化学(1) 歯と歯周組織を生化学の観点から説明する。 P50~64 [課題(準備)] 歯の無機成分と有機成分についてまとめる。(4h)					
13(小原)	歯・口の生化学(2) 歯牙・硬組織を生化学の観点から説明する。(石灰化、再石灰化、骨の生成、吸収) p65~80 [課題(復習)] Ca調節ホルモンについて整理する(4h)					
14(小原)	歯・口の生化学(3) 唾液の組成と作用を知り口腔の外部環境を形成している唾液の重要性について説明する。 p81~89 [課題(予習)] デンタルプラークについて予習する(4h)					
15(小原)	12回~14回までの課題を確認する。 歯と口の生化学(4) う蝕・歯周病に対する生体防御機構を自然免疫系と獲得免疫系から講義する。 p90~113 [課題(準備)] プラークによる歯周疾患発症機構についてまとめる。(4h)					
時間外での学修	口腔生化学(小原): 講義の最後に出す課題について、次の講義まで調べてくること。 栄養学(久本): 毎回小テストを実施しますので、復習をしっかり行ってください。 [課題] は授業の到達目標達成に必要な内容ですので、()の標準学修時間をめどにして、授業外で確実に学修を進めましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間: 60時間】					

受講学生への メッセージ	講義中心の科目ですが、演習もあるので積極的な態度で臨みましょう。第8週は、筆記試験になるため体調を整え臨んでください。 オフィスアワーは、木曜日5時限（小原）：研究室（G205：G号館2F）、木曜日5時限（久本）：研究室（G304：G号館3F）です。
-----------------	--

【4H1B210】口腔衛生学		歯科衛生学科		1年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	塚本 敬子					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	口腔保健関連 9年					
授業内容	口腔衛生とは、歯や口腔の「健康」の保持増進をねらいとした学問である。そのため歯や口腔の基礎的な知識、口腔疾患の発生・要因を理解することを重点に授業を進めていき口腔の健康状態が保てるような予防方法を修得できることを目的とする。					
授業方法	授業は、配付資料とスライドを中心にを行います。併せて臨床写真や図なども利用します。					
到達目標	知識・理解	歯や口腔の基礎的な知識を理解し、口腔の健康を保持増進させるための予防手段を身につけることができる				
	思考・判断・表現	口腔の健康を維持増進するためのリスクを論理的に考え判断し、適切に説明ができる。				
	関心・意欲・態度	歯や口腔の予防について関心を持ち、積極的に考えようと努力しながら学修に取り組む事ができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	60	10	-	5	75
	小テスト	20	-	-	5	25
	合計(点)	80	10	-	10	100
評価の特記事項						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第3版』医歯薬出版(6,160円)ISBN:978-4-263-42862-7 『歯科衛生士のためのう蝕予防処置法 第2版』医歯薬出版(3,960円)ISBN:978-4-263-42241-0					
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	口腔衛生学概論(口腔内の観察、口腔内の名称を理解する) [課題(復習)]口腔の名称についてまとめる。(2h)					
2	- 1章 総論 (口腔の予防について理解する) [課題(復習)]学修内容を復習し、歯・口腔の健康と予防についてまとめる。(2h)					
3	- 1章 総論 2-歯・口腔の健康 (歯・口腔の構造について理解する) [課題(復習)]学修内容を復習し、歯・口腔の構造についてまとめる。(2h)					
4	- 1章 総論 (口腔内の機能について理解する) [課題(復習)]学修内容を復習し、歯・口腔の機能についてまとめる。(2h)					
5	- 1章 総論 (歯の付着物について理解する) 1~5回の課題の確認のため小テストを行います。 [課題(復習)]学修内容を復習し、歯・口腔の付着物についてまとめる。(2h)					
6	- 4章 齲蝕の予防 (う蝕のメカニズムについて理解する) [課題(復習)]1~5回で学んだ内容の復習とう蝕の発生メカニズムについてまとめる。(2h)					
7	- 4章 齲蝕の予防 (う蝕が発生する要因について理解する) [課題(復習)]学修内容を復習し、齲蝕の発生要因についてまとめる。(2h)					
8	- 4章 齲蝕の予防 (う蝕活動性について理解する) [課題(復習)]学修内容を復習し、齲蝕活動性についてまとめる。(2h)					
9	- 4章 齲蝕の予防 (う蝕予防法について理解する) [課題(復習)]学修内容を復習し、う蝕予防法の適用についてまとめる。(2h)					
10	- 4章 齲蝕の予防 (う蝕発生要因に対する予防について理解する) [課題(復習)]学修内容を復習し、う蝕発生要因に対する予防についてまとめる。(2h)					
11	- 2章 口腔清掃(口腔清掃の意義、口腔清掃法について理解する) [課題(復習)]1~8回で学んだ内容の復習と口腔清掃の意義、口腔清掃法についてまとめる。(2h)					
12	- 2章 口腔清掃(歯磨剤と洗口剤について理解する) [課題(復習)]学修内容を復習し、歯磨剤と洗口剤の成分についてまとめる(2h)					
13	- 6章 歯周疾患の予防 (歯周疾患の発生機序や分類について理解する) [課題(復習)]学修内容を復習し、歯周疾患の発生機序や分類についてまとめる。(2h)					
14	- 6章 歯周疾患の予防 (歯周疾患の予防手段と処置について理解する) [課題(復習)]学修内容を復習し、歯周疾患の予防手段と処置についてまとめる。(2h)					
15	授業第1~14回の総復習 [課題(復習)]前期学修した内容をまとめる(2h)					
時間外での学修	配付資料が多いので、必ずファイリングをして復習しましょう。 薬局に行った際、どのような口腔ケア用品があるか調べてみましょう。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:20時間]					
受講学生へのメッセージ	授業内容が大変広範囲で多岐にわたり、とらえどころが難しいと感じると思いますが、積極的に授業に出席してください。 オフィスアワーは、毎週木曜日授業終了後(12:10~12:20)の休み時間に教室で行います。					

【4H1B211】口腔衛生学		歯科衛生学科		1年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	塚本 敬子					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	口腔保健関連 9年					
授業内容	歯科における歯科衛生士の重要な役割であるう蝕予防法のひとつであるフッ化物の応用について学んでいきます。臨床では、様々なフッ化物応用法を使うため基礎的な知識と正確な情報の理解と公衆衛生活動として母子の歯科保健と学校での歯科保健についても理解を深める必要があります。これらの得られた知識を活用して歯科衛生士としての業務遂行にさらなるレベルアップをめざします。					
授業方法	授業は、配付資料とスライドを用いて行います。併せて臨床写真や図なども利用します。					
到達目標	知識・理解	歯や口腔の基礎的な知識を理解し、口腔の健康を保持増進させるための予防手段を身につけることができる				
	思考・判断・表現	口腔の健康を維持増進するためのリスクを論理的に考え判断し、適切に説明ができる				
	関心・意欲・態度	歯や口腔の予防について関心を持ち、積極的に考えようと努力しながら学修に取り組む事ができる				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	75	15	-	5	95
	受講態度	-	-	-	5	5
	合計(点)	75	15	-	10	100
評価の特記事項						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第3版』医歯薬出版(6,160円)ISBN:978-4-263-42862-7 『歯科衛生士のためのう蝕予防処置法 第2版』医歯薬出版(3,960円)ISBN:978-4-263-42241-0 前期「口腔衛生学」で購入済み。					
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	前期授業の内容を再確認し理解する。 [課題(復習)]前期の配付プリントで学修した内容をまとめる。(2h)					
2	-5章 フッ化物の一般性状(フッ化物について理解する) [課題(復習)]学修内容を復習し、フッ化物についてまとめる。(2h)。					
3	-5章 フッ化物の応用1(フッ化物の全身応用について理解する) [課題(復習)]学修内容を復習し、フッ化物の応用についてまとめる。(2h)					
4	-5章 フッ化物の応用2(フッ化物の局所応用の特徴について理解する) [課題(復習)]学修内容を復習し、フッ化物の応用についてまとめる。(2h)					
5	-5章 フッ化物の安全性(フッ素の安全量を理解する) 2-4回の内容を演習問題で確認する。 [課題(復習)]学修内容を復習し、使用するフッ素の安全量についてまとめる。(2h)					
6	-5章 フッ化物の急性毒性(急性毒性の特徴について理解する) 2-5回の内容を演習問題で確認する。 [課題(復習)]学修内容を復習し、毒性についてまとめる。(2h)					
7	-5章 フッ化物の慢性毒性(慢性毒性の特徴について理解する) [課題(復習)]学修内容を復習し、慢性毒性についてまとめる。(2h)					
8	-5章 フッ化物応用(応用法について理解する) [課題(復習)]学修内容を復習し、小窩裂溝填塞、フッ化ジアミン銀の方法、特徴についてまとめる。(2h)					
9	-5章 フッ化物応用(フッ化物の作用機序について理解する) [課題(復習)]学修内容を復習し、フッ化物のメカニズムについてまとめる。(2h)					
10	-1章 地域歯科保健1(組織、関係法規について理解する) [課題(復習)]学修内容を復習し、関係法規についてまとめる。(2h)					
11	-1章 地域歯科保健2(国の健康対策と関係法規について理解する) [課題(復習)]学修内容を復習し、国の健康作り対策、関係法規についてまとめる。(2h)					
12	-2章 母子歯科保健2(組織、関係法規について理解する) [課題(復習)]学修内容を復習し、関係法規についてまとめる。(2h)					
13	-2章 母子歯科保健2(1歳6ヶ月、3歳児歯科健康診断を理解する) [課題(復習)]学修内容を復習し、1歳6ヶ月、3歳児歯科健康診断についてまとめる。(2h)					
14	-3章 学校歯科保健1(学校保健の意義、仕組みについて理解する) [課題(復習)]学修内容を復習し、学校保健の意義、仕組みについてまとめる。(2h)					
15	-3章 学校歯科保健2(学校歯科健康診断について理解する)、後期の授業のまとめ [課題(復習)]学校歯科健康診断、後期の授業の内容についてまとめる。(2h)					
時間外での学修	配付資料が多いので、必ずファイリングをして復習しましょう。 新聞などで上記項目に関連する記事に関心をもって読んでください。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:20時間]					
受講学生へのメッセージ	授業内容が大変広範囲で多岐にわたり、とらえどころが難しいと感じると思いますが、積極的に授業に出席してください。 オフィスアワーは、毎週木曜日授業終了後(12:10~12:20)の休み時間に教室で行います。					

【4H2S101】 歯科衛生士概論		歯科衛生学科		1年前期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	水嶋 広美						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	歯科医療に対する社会のニーズが高まり、口腔疾患の予防だけでなく、食べる支援者として歯科衛生士の活躍する場や業務内容の拡大にはめざましいものがあります。これから歯科衛生士を目指すため「歯科衛生士」とは何か、歯科衛生士の役割および使命を理解し、歴史、医療人として心構えなどについて考えていきます。						
授業方法	授業は、テキストや資料を用いて講義を中心とする。歯科衛生士としての専門職として必要なことは何か、小グループでの検討、発表なども含めて授業を展開します。必要な項目についてまとめとして、毎回の学修したことについて課題レポートを実施する。						
到達目標	知識・理解	1. 歯科衛生の歴史(変遷)を理解する。 2. 歯科衛生を担う職種として歯科衛生士の活動の場と業務内容を説明する。 3. 歯科衛生業務を展開する理論「歯科衛生科過程」の要素について概説し、各場面で必要になる知識・技術を理解する。 4. 医療人としての職業倫理を説明する。 5. 医療安全における歯科衛生士の責務を説明する。 6. 期待される歯科衛生士像を理解する。					
	関心・意欲・態度	1. 将来の歯科衛生士を目指して、授業に積極的に参加し、自ら関心を持って意欲的に学修に取り組む。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		70	-	-	-	70
	レポート		10	-	-	10	20
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		80	-	-	20	100	
評価の特記事項	筆記試験、受講態度、課題の内容、提出状況などから総合的に評価します。課題は期限までに提出したもののみ、筆記試験時に持ち込むことができます。						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科衛生学総論』医歯薬出版株式会社(2,970円) ISBN:978-4-263-42810-8 『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』医歯薬出版株式会社(9,020円) ISBN:978-4-263-42863-4 『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第3版』医歯薬出版株式会社(6,160円) ISBN:978-4-263-42862-7 『最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版』医歯薬出版株式会社(6,600円) ISBN:978-4-263-42840-5						
参考書・教材	『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 歯科衛生士と法律・制度 第3版』医歯薬出版 その他必要な資料は配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	歯科衛生士の歴史(変遷) 日本の歯科衛生士の歴史を学び、活動の場の変遷を知る。 [課題]歯科衛生士の誕生と経緯を調査しまとめる(3h~5h)						
2	法律と歯科衛生士業務 歯科衛生業務の専門性や歯科衛生士法などについて学ぶ。 [課題]歯科衛生士法についてまとめることで、歯科衛生士の役割を理解する。(3h~5h)						
3	歯科衛生士とは 学内で学ぶための学科ガイダンス及び学内実習に対してのガイダンス 歯科衛生士が学ぶ「歯科衛生学」とは何か、健康とのかかわりについて学ぶ。また、歯科衛生士の養成状況、就業状況を知る。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、歯科衛生学についてまとめる(3h)						
4	歯科保健指導とは (1回2回の課題の確認と復習) 口腔の健康について自分の口腔の健康状態を理解する。 「今後の効果的なブラークコントロールのための」基礎知識と効果的な予防製品の使い方を学ぶ [課題(復習)]学んだことを復習し、自分の口腔の状態を観察しレポートにまとめる(3h~10h)						
5	歯科衛生活動のための理論 健康の概念、予防の概念について健康増進に関連する戦略の概要を学ぶ。 [課題(復習)]学んだことを復習し、健康の概念について必要な用語をまとめる(3h~5h)						
6	歯科衛生活動のための理論 口腔の2大疾患のリスクと予防法について知る。歯科衛生士の実際の活動場面の例を紹介する。 [課題(復習)]学んだことを復習し、歯科衛生士の活動についてまとめる(3h~5h)						
7	歯科衛生士の業務 予防の概念を理解し、口腔保健の専門職としての考え方の基本を学ぶ。 [課題(復習)]予防概念を理解し、歯科衛生士としての保健行動の理論についてまとめる(3h~5h)						
8	歯科衛生士の業務 歯科衛生士の社会活動の領域と組織活動の内容を学ぶ。また、自分が思う歯科衛生士の役割についてグループで討論し、発表する。 [課題(復習・他)]学んだ内容を復習し、歯科衛生士の社会活動についてまとめる(3h~5h)						
9	歯科衛生士の活動の場の理解 歯科衛生業務における、歯科衛生過程を活用する意義を理解する。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、歯科衛生過程を活用する意義をまとめる(3h~5h)						
10	歯科衛生士の活動の場の理解 (5回~10回の課題の確認) 歯科衛生過程のプロセスから、歯科衛生士業務の流れと内容を理解する。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、歯科衛生過程の内容についてまとめる(3h~5h)						
11	歯科衛生士の活動の場の理解 歯科衛生士の活動の領域と就業状況、保険・医療・福祉のかかわりについて学ぶ。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、歯科衛生士の活動についてまとめる(3h~5h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
12	医療安全管理 インシデント(ヒヤリハット)、アクシデントや感染予防対策について学ぶ。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、医療安全についてまとめる(3h~10h)
13	歯科衛生士と医療倫理 倫理の必要性、患者の権利、専門職の倫理を学ぶ。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、医療倫理についてまとめる(3h~5h)
14	歯科衛生士と医療倫理 (11回から13回の課題の確認) 倫理の必要性、患者の権利、専門職の倫理を学ぶ。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、医療倫理について自分なりの考え方をまとめる(3h~10h)
15	歯科衛生学まとめ(外部講師) 歯科衛生士の現状と社会におけるニーズと今後について学ぶ。 [課題(復習)]自分が目指す歯科衛生士についてまとめ、レポートを完成させる(3h~5h)
時間外での学修	毎回の課題やレポートは必ずまとめて提出して下さい。授業以外の必要な情報を得るため、複数のテキストや図書館を積極的に利用して下さい。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	歯科衛生士を目指すものとして、知識だけではなく態度が大切です。欠席せず、積極的に学ぶ姿勢を身につけてください。 オフィスアワーは研究室(G306:G号館3F)で毎週金曜日の16:30から17:30です。

【4H2S102】 歯科臨床概論		歯科衛生学科		1年前期			
		1単位	必修	講義	15時間		
教員	海原 康孝						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	歯科医師(大学病院勤務)・27年						
授業内容	臨床科目を学ぶにあたり、歯科医療を行う側に立つ者として歯科医療全般についての概要を知るとともに、歯科衛生士としての役割を自覚することを目標とする。授業に発表や討論も取り入れる。						
授業方法	『歯科臨床概論』では講義を主体とする。適宜配付資料や実物も使用する。						
到達目標	知識・理解	歯科疾患における成り立ちと症状、治療内容、処置の概要についての基本的な知識を理解できる。 医の倫理をわきまえた上で診療や診療の補助にあたる必要性が理解できる。					
	関心・意欲・態度	高い関心を持ち、疑問点を積極的に学修に取り組むことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	定期試験		80	-	-	-	80
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		80	-	-	20	100
評価の特記事項							
テキスト	『歯科衛生士のための歯科臨床概論』医歯薬出版(2,640円) ISBN:978-4-263-42217-5						
参考書・教材	適宜紹介する。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	歯科診療と歯科診療所 [課題(復習)]歯科診療と診療所がどのようなものかを知り、医療従事者としての心がまえについて理解を深める。(4h)						
2	ライフステージと歯科診療 歯科診療で行うこと - 主な診療の流れ - (1) 診査・検査・前処置 [課題(復習)]歯科診療の診療内容とながれの概要を復習し、まとめる。(4h)						
3	歯科診療で行うこと - 主な診療の流れ - (2) 小児歯科・歯科矯正 (1, 2の課題の確認も行う) [課題(復習)]歯科診療の診療内容とながれの概要を復習し、まとめる。(4h)						
4	歯科診療で行うこと - 主な診療の流れ - (3) 口腔外科 [課題(復習)]歯科診療のながれの概要を復習し、まとめる。(4h)						
5	歯科診療で行うこと - 主な診療の流れ - (4) 歯科保存 [課題(復習)]歯科保存診療の診療内容とながれの概要を復習し、まとめる。(4h)						
6	歯科診療で行うこと - 主な診療の流れ - (5) 歯周治療 [課題(復習)]歯周治療の診療内容とながれの概要を復習し、まとめる。(4h)						
7	歯科診療で行うこと - 主な診療の流れ - (6) 歯科補綴 [課題(復習)]歯科補綴診療の診療内容とながれの概要を復習し、まとめる。(4h)						
8	歯科診療で行うこと - 主な診療の流れ - (7) 障害者歯科・高齢者歯科 (3~7の課題の確認も行う) [課題(復習)]障害者歯科および高齢者歯科の診療内容と流れを復習し、まとめる。(4h)						
時間外での学修	講義内容をよく復習するようにしましょう。理解できないことや疑問点があれば質問するようにして下さい。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：32時間】						
受講学生へのメッセージ	歯科医学への入門となるような講義です。この授業を通じて歯科医学の概略をつかむことで、専門科目の勉強が取り組みやすくなるでしょう。 オフィスアワーは研究室で毎週木曜日の5時限目16:20~17:50です。						

【4H2S206】小児歯科学		歯科衛生学科		1年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	石川 隆義					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	大学病院小児歯科勤務の歯科医師・20年					
授業内容	臨床歯科学の一分野である小児歯科学では、成長発達の過程にある小児を対象として、胎児期から成人に至るまでの顎・顔面・口腔領域の健康を維持し増進させるために、疾病や異常の予防・治療および小児の歯科健康管理について授業を行う。授業の内容は、将来を担う歯科衛生士として、小児歯科学の意義・目的に即した概論を学び、小児の成長発達に伴う基本的知識、小児歯科における予防処置・診療補助・保健指導の専門的知識をアクティブ・ラーニングを活用して修得できるよう構成している。					
授業方法	講義と小グループでの討議形式を含めた授業展開で進めていく。また子育てサロンでの体験学習も実施し、小児歯科領域の様々な問題解決に向けて、思考する能力育成を重視した授業方法をとる。					
到達目標	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・小児の心身の発育と口腔の成長変化について説明ができる。 ・小児の歯科疾患の病因と予防法について説明ができる。 ・小児（不協力児および障害児を含む）への歯科衛生士としての対応を具体的に説明できる。 ・小児歯科診療の流れと歯科衛生士としての役割を説明ができる。 ・小児への継続した口腔健康管理の目的と方法を説明ができる。 				
	関心・意欲・態度	小児歯科に関する疑問点を自己学修によって解決ができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	80	-	-	-	80
	受講態度	-	-	-	20	20
	合計(点)	80	-	-	20	100
評価の特記事項	試験は筆記試験（定期試験時）で評価を行います。受講態度は学修への取組状況によって評価します。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 小児歯科』医歯薬出版(3,300円) ISBN:978-4-263-42824-5					
参考書・教材	長坂信夫/他編『新小児歯科学』医歯薬出版 他に必要な資料は授業で配付する。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	小児歯科学概論：小児歯科の定義と目的について述べた後、小児歯科診療と歯科衛生士の役割について言及していく。 [課題（予習）]学修内容を予習し、小児歯科の歯科診療の中での位置付けについてまとめる。（1h）					
2	小児の心身の成長・発達：発育の評価と生理的年齢について解説し、身体的成長と精神的発達面に言及し、さらに小児の生理的特徴について述べる。 [課題（予習）]学修内容を予習し、小児の身体的成長と精神的発達についてまとめる。（1h）					
3	小児の顔面頭蓋の発育：小児の顎顔面頭蓋の発育様式と発育の評価法について、生体を直接計測する方法とレントゲンや模型で間接的に計測評価する方法を述べる。 [課題（予習）]学修内容を予習し、特に小児の顎顔面頭蓋の発育様式の特徴についてまとめる。（1h）					
4	歯の発育と異常：歯の発育段階について述べ、各発育時期における障害による歯の形成障害について解説する。また、歯の萌出とその異常についても言及する。 [課題（予習）]学修内容を予習し、歯の発育のステージと障害の発生との関連についてまとめる。（1h）					
5	歯列・咬合の発育と異常：乳歯列期と混合歯列期における歯列・咬合の発育の特徴と、その異常を遺伝と環境の両面から解説する。 [課題（予習）]学修内容を予習し、咬合発育段階における歯列・咬合の変化についてまとめる。（1h）					
6	小児の歯科疾患：小児にみられる口腔軟組織の異常と疾患について述べるが、特に小児における歯肉炎、歯周炎、歯肉増殖症について詳述する。1 - 6の課題の確認のため、発表とまとめを行う。 [課題（予習）]学修内容を予習し、特に小児に発生する歯肉炎、歯周炎の特徴についてまとめる。（1h）					
7	小児期の特徴と歯科的問題点：小児期を低年齢児、学童期、思春期の3ステージに分け、それぞれの時期での小児の特徴や留意点、特徴的歯科疾患について述べる。 [課題（予習）]学修内容を予習し、小児の発達時期に応じた歯科的問題点についてまとめる。（1h）					
8	小児歯科診療体系（1）診査・診断：小児の歯科診療とその特徴、小児歯科における診査・診断、さらに保護者教室の意義について解説する。 [課題（予習）]学修内容を予習し、一口腔単位として小児の口腔における診査・診断の重要性をまとめる。（1h）					
9	小児歯科診療体系（2）治療について：小児歯科における保存的、口腔外科の治療並びに咬合誘導について解説する。 [課題（予習）]学修内容を予習し、特に幼若永久歯の歯内療法についてレポートを課す。（1h）					
10	小児患者の対応法：診療室における小児の態度と行動について臨床心理学的観点から解説し、歯科治療時の実際の対応法について言及していく。 [課題（予習）]小児歯科臨床における不協力児の場面に対する介入方法におけるレポートを課す。（1h）					
11	障害児の歯科治療：障害の種類とその全身的・歯科的特徴について述べ、実際の対応について言及する。7 - 11までの課題についてレポート等の提出に基づいて確認し、発表とまとめを行う。 [課題（予習）]学修内容を予習し、障害の種類に応じた口腔の特徴についてまとめる。（1h）					
12	小児歯科診療における歯科衛生士の役割(1)予防業務：診察・検査時の業務とう蝕予防について述べる。 [課題（予習）]学修内容を予習し、歯科衛生士の小児歯科診療における診察・検査時の業務とう蝕予防についてまとめる。（1h）					
13	小児歯科診療における歯科衛生士の役割(2)診療補助：実際の小児歯科診療時の補助業務について述べる。 [課題（予習）]学修内容を予習し、歯科衛生士の小児歯科診療における診療補助業務についてまとめる。（1h）					
14	小児の口腔健康管理と器材の管理：乳幼児期から学童期、思春期に至るまでの口腔健康管理を中心に解説する。 [課題（予習）]学修内容を予習し、小児の口腔保健管理についてまとめる。（1h）					

内容	
実施回	授業内容・目標
15	授業で学んだ全体の内容について振り返り、総合的まとめを行う。学修した内容を項目ごとにレポートにまとめ課題確認をする。 【課題（復習）】全体的な学修内容を総復習し、小児歯科全般についてまとめる。（1h）
時間外での学修	各回の授業のテーマに関してテキスト等で予習を行い、授業後は配付プリントやテキスト等を復習し理解を深める事。わからない点、疑問点は図書館等で調べ解決への努力をしてください。自分で調べても問題解決できない場合は、石川研究室(G204)まで問題点を整理して聞きにきてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	将来、歯科衛生士として小児歯科等の歯科医療を担う一員となる自覚を十分にもって、受講態度に気をつけるとともに予習・復習をしっかり行って授業に積極的に出席すること。 オフィスアワーは、G204で毎週木曜日の5時限目16:20～17:30です。

【4H2S110】歯科放射線学		歯科衛生学科		1年後期		
		1単位	必修	講義	15時間	
教員	海原 康孝					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	歯科医師(大学病院勤務)・27年					
授業内容	歯科医療に必須の放射線画像の成り立ちと症例に基づいた画像診断について学ぶ。エックス線写真の撮影方法や、安全な利用方法、口腔癌の放射線治療についても学ぶ。					
授業方法	講義を中心とした授業展開を基本とする。教科書だけでなくスライドや配付資料を使うこともある。授業に発表や討論も取り入れる。					
到達目標	知識・理解	歯科におけるエックス線写真と画像診断、放射線とその性質、それに関連する項目について基本的な知識を理解できる。				
	関心・意欲・態度	エックス線撮影の準備手順や留意点に関する課題に関心を持ち、積極的に考え努力して学修に取り組むことができる。				
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	80	-	-	-	80
	受講態度	-	-	-	20	20
	合計(点)	80	-	-	20	100
評価の特記事項						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科放射線』医歯薬出版(3,080円) ISBN:978-4-263-42828-3					
参考書・教材	必要な資料は適宜紹介または配付する。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	歯科医療と放射線 (歯科医療におけるエックス線の役割、エックス線の性質と整体への影響、放射線防御について理解する。) [課題(復習)]歯科医療におけるエックス線の果たす役割について復習し、まとめる。(4h)					
2	エックス線画像の形成 (エックス線画像の成り立ち、エックス線と生体物質の相互作用、エックス線フィルム、エックス線センサーについて学ぶ。) [課題(復習)]エックス線画像の成り立ちについて復習し、まとめる。(4h)					
3	歯科におけるエックス線検査(1) (口内法エックス線撮影、パノラマエックス線写真について学ぶ。1、2の課題の確認も行う。) [課題(復習)]歯科治療に最も多く用いるエックス線撮影装置について復習し、まとめる。(4h)					
4	歯科におけるエックス線検査(2) (頭部エックス線規格撮影、その他の様々な画像検査法について学ぶ。) [課題(復習)]矯正歯科、口腔外科領域で用いる画像検査法について復習し、まとめる。(4h)					
5	口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割 (口内法エックス線撮影の準備手順と留意点、フィルムの位置づけなどについて学ぶ。3、4の課題の確認も行う。) [課題(復習)]口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割を復習し、まとめる。(4h)					
6	パノラマエックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割 (パノラマエックス線撮影の準備手順と留意点、フィルムの位置づけなどについて学ぶ。) [課題(復習)]パノラマエックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割を復習し、まとめる。(4h)					
7	写真処理と画像保管の実際 (写真処理の方法と手順、写真保管について学ぶ。) [課題(復習)]写真処理と画像保管の実際について復習し、まとめる。(4h)					
8	放射線治療と口腔管理 (口腔癌の放射線治療や放射線治療患者の口腔管理について学ぶ。5~7の課題の確認も行う。) [課題(復習)]放射線治療と口腔管理について復習し、まとめる。(4h)					
時間外での学修	教科書や講義の内容をよく復習し理解を深め、確実に学修しましょう。理解できないことや疑問点があれば質問して下さい。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：32時間】					
受講学生へのメッセージ	予習・復習をしっかりと授業に出席してください。オフィスアワーは毎週木曜日の5時限目16:20~17:50(研究室にて)です。					

【4H3S201】歯周病予防基礎		歯科衛生学科		1年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	小牧 令二					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	開業歯科医師 3 3年					
授業内容	歯を支える組織の病気である歯周病は、う蝕と共に歯科の2大疾患といわれ、歯を失う原因の半分以上を占めています。歯周病の予防と治療の大部分は歯科衛生士の業務範囲にあり、歯科衛生士の役割は歯周病治療において非常に重要です。本教科では、歯周病についての基礎知識と予防・治療法について学び、歯周病予防・治療の理論的根拠を考えられるようになることを目指します。					
授業方法	講義が主体で、毎回、宿題プリントの答え合わせをします。					
到達目標	知識・理解	歯周疾患の罹患状況の概略を説明できる。 歯周組織の構成要素をあげ、その組織図を描ける。 歯周疾患の分類とその特徴を説明できる。 歯周病の原因である直接因子と修飾因子を説明できる。 歯周治療の進め方とその内容の概略を説明できる。 歯周治療の流れに従った歯科衛生士の役割を説明できる。				
	関心・意欲・態度	積極的に学修に取り組むことができる。				
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	90	-	-	-	90
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	90	-	-	10	100
評価の特記事項						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版』医歯薬出版(3,850円) ISBN:978-4-263-42839-9 『しっかり測定できる!歯周組織検査パーフェクトブック』クインテッセンス出版(3,520円) ISBN:978-4-7812-0039-2					
参考書・教材	その他 資料は配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	<総論> 日本における歯周病罹患の実態を学ぶ。歯周治療の概要を知る。 [課題(復習)]歯の喪失原因と歯の健康についてまとめる。(1h)					
2	<歯周組織の理解> 歯周組織の構造と機能を復習し、組織図が正しく描けるようにする。 歯肉炎と歯周炎の違いを学ぶ。 [課題(復習)]歯周組織を覚え、図が描けるようにする。(1h)					
3	<歯周病の分類と原因> 歯肉炎と歯周炎の分類と原因について知る。 局所的原因と全身的原因があることを学ぶ。 [課題(復習)]歯肉炎と歯周炎の違いを図示できるようにする。(1h)					
4	<歯周病菌の理解> 歯周病の原因とされている微生物の種類を学ぶ。 [課題(復習)]歯周病に関係する微生物の名前を覚える。(1h)					
5	<発症のメカニズム> なぜ、歯周病が起きるのか。微生物と免疫との関係について学ぶ。 [課題(復習)]発症のメカニズムについて理解し、まとめる。(1h)					
6	<全身と歯周病との関係> 歯周病が全身に与える影響と全身的原因を理解する。 [課題(復習)]全身的原因と歯周医学について項目を覚える。(1h)					
7	1回～7回までの課題を確認する。 <歯周病の臨床症状> 歯周病になるとどのような症状がおきるのか、また、なぜそれが起きるのかを学ぶ。 [課題(復習)]歯周病の症状について理解し、まとめる。(1h)					
8	<歯周治療の進め方> 臨床では、歯周治療がどのように進められるか、理解する。 また、歯科衛生士はどのような役割があるかを学ぶ。 [課題(復習)]歯周治療の順番を覚える。(1h)					
9	<問診から歯周検査> 歯周治療に必要な歯周検査の種類を学ぶ。 [課題(復習)]検査の項目を覚える。(1h)					
10	<歯周検査の意味> 実習で行なっている歯周検査の意味を理解する。 [課題(復習)]それぞれの検査の意味を理解し、まとめる。(1h)					
11	<歯周基本治療(イニシャルプレバレーション)> 歯周治療の基本となる治療である。 どのような目的で、どのような内容を行なうのかを学ぶ。 [課題(復習)]歯周基本治療の目的と手順を覚える。(1h)					
12	<再評価> 治療の効果を見るために評価を行なうが、その目的と内容について学ぶ。 [課題(復習)]再評価の目的と意義を理解し、まとめる。(1h)					
13	<歯周外科> 歯周外科の種類と手順、使用器具を知る。根分岐部病変への処置法を学ぶ。 [課題(復習)]歯周外科の種類と使用器具を覚える。(1h)					
14	<リハビリテーション> 歯周外科後の歯周補綴、矯正、咬合調整の概要について学ぶ。 [課題(復習)]リハビリテーションのそれぞれの目的を覚える。(1h)					
15	8回～14回までの課題を確認する。 <メンテナンス> メンテナンスの内容とその必要性を理解する。 [課題(復習)]メンテナンスの必要性を説明できるように要点を覚える。(1h)					
時間外での学修	適時プリントを配付します。授業を聞いて、しっかりプリントをまとめておくようにしてください。歯周組織の構造や歯周病の原因を理解することが前提となるので、前期で学ぶ、口腔解剖学・病理学・微生物学を事前に復習してください。【この課題で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】					
受講学生へのメッセージ	歯周病予防技術法の基礎となる教科です。国家試験においても重要な内容です。教科書を熟読し、プリントを基にまとめておいてください。オフィスアワーは教室で講義終了後です。					

【4H3S402】歯周病予防技術法		歯科衛生学科		1年前期			
		1単位	必修	実習	45時間		
教員	阿尾 敦子・今井 藍子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	今井：歯科医院歯科衛生士・10年						
授業内容	歯科予防処置とは、歯や歯肉の疾患を予防するための専門家によって行われる処置をいい、歯周病に対するものと、う蝕に対するものがあります。この教科では歯周病の予防・治療の専門的技術である歯石除去法の技術を修得します。歯周病の概要と原因を知り、歯石除去の術式に使用する器具の基本的取扱いや模型上での歯石除去操作を修得します。						
授業方法	実習科目です。講義で基礎知識を理解した後は、実習中心の授業となります。回を追うごとに手技の訓練を積み重ね、技術を向上させていきます。						
到達目標	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科予防処置の概要を知り、歯石除去の目的を理解できる。 ・ 歯石除去の使用器具・方法について説明できる。 					
	技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯石除去の器具を用い、模型上で基本操作が正しく実施できる。 ・ マネキンを使用し、歯肉縁上歯石の除去操作が正しく実施できる。 ・ シャーピング法を理解し、シクルタイプスケーラーのシャーピング操作ができる。 					
	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯周病予防の技術修得のために、積極的に学修に取り組むことができる。 					
	備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	定期試験(筆記試験)		30	-	-	-	30
	定期試験(実技試験)		-	-	50	-	50
	小テスト		10	-	-	-	10
	履修カルテ・受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		40	-	50	10	100	
評価の特記事項	定期試験は実技試験、筆記試験それぞれ6割の取得が必要です。受講態度は学修の取組、提出状況等とします。						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』医歯薬出版(9,020円) ISBN:978-4-263-42863-4						
参考書・教材	必要に応じてプリントを配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	歯周病予防の概要：歯科予防処置の歯周病予防について、歯周病の概要と原因を理解する。 歯石除去の必要性を理解する。 [課題(復習)]歯周病予防の概要を復習する(0.5h)						
2	口腔の構造と付着物・沈着物について：課題の確認。歯や歯肉組織の構造や付着物・沈着物を理解する。 また、診療器具・歯石除去器具の取扱いを学ぶ。 [課題(復習)]歯肉組織・歯の構造、付着物・沈着物について復習する(0.5h)						
3	手用スケーラーについて：課題の確認。手用スケーラーの種類と特徴を理解し、基本操作を実習する [課題(復習)]手用スケーラーの基本操作を復習する(0.5~1h)						
4	マネキンの操作法：課題の確認。マネキンの操作法を知り、シクルタイプスケーラーを模型上で操作する [課題(復習)]シクルタイプスケーラーの模型上での操作を復習する(0.5~1h)						
5	歯石除去法(1)：課題の確認。上顎前歯部のマネキン実習 [課題(復習)]上顎前歯部のスケーリング操作を復習する(0.5~1h)						
6	歯石除去法(2)：課題の確認。下顎前歯部のマネキン実習 [課題(復習)]下顎前歯部のスケーリング操作を復習する(0.5~1h)						
7	シャーピング法：課題の確認。シクルタイプスケーラーのシャーピングを実習する [課題(準備)]シクルタイプスケーラーをシャーピングし提出する(1h)						
8	歯石除去法(3)：課題の確認。下顎臼歯部のマネキン実習 [課題(復習)]下顎臼歯部のスケーリング操作を復習する(1h)						
9	歯石除去法(4)：課題の確認。上顎臼歯部のマネキン実習 [課題(復習)]上顎臼歯部のスケーリング操作を復習する(1h)						
10	実技のまとめ：課題の確認。歯周病予防の知識を整理し、スケーリング操作を復習する [課題(復習)]課題部位のマネキン上でのスケーリング操作を復習する(1h)						
11	実技チェック：マネキン実習で修得した技術を試験形式で確認する						
12	実技確認：実技チェックの結果を確認し復習する。 相互実習について：相互実習の流れを把握する						
時間外での学修	[課題]の内容をしっかりと学修し授業に臨んでください。自主トレーニングを通して、確実に技術を身につけることが大切です。疑問点は質問をして解決していきましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：9時間】						
受講学生へのメッセージ	技術を積み重ねて身につけるため、欠席をしないように健康管理を十分行ってください。授業内容の詳細を毎回掲示しますので、忘れずに確認してください。オフィスアワーは研究室で木曜日の5限目です。						

【4H3S403】歯周病予防技術法		歯科衛生学科		1年後期			
		1単位	必修	実習	45時間		
教員	今井 藍子・川島 智子・藤澤 さち子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	今井：歯科医院歯科衛生士・10年						
授業内容	歯周疾患の予防・治療のためには、口腔内状況を把握するための情報収集が重要です。そのために、歯周組織診査を実習し、情報をえることを学びます。「歯周病予防技術法」と同様に、専門器具を使用して歯石除去、歯面研磨の知識・技術を修得します。						
授業方法	実習科目です。講義・示説で知識を理解した後、実習で技術を修得します。特に、相互実習で生体への配慮を行いながら技術を向上させていきます。						
到達目標	知識・理解	歯周組織診査の目的や得られる情報を理解することができる 歯周組織診査の使用器具の用途や特徴が説明できる 超音波・エアスケーラーの種類や特徴、使用方法を説明できる 歯面研磨の目的や特徴、使用方法を説明できる					
	思考・判断・表現	相互実習の術式、内容を示すことができる 相互実習での生体への配慮を示すことができる					
	技能	歯周組織診査の項目に合った器具を操作できる 超音波・エアスケーラー、歯面研磨に合った器具を適切に操作できる 生体への配慮や医療安全を意識して相互実習を実施できる 施術にあたって患者指導が適切におこなえる					
	関心・意欲・態度	医療人としての自己管理をし、主体的に実習に取り組むことができる					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	定期試験(筆記・実技)		30	-	45	-	75
	小テスト		5	-	-	-	5
	レポート		-	10	-	-	10
	受講態度		-	-	-	10	10
		合計(点)	35	10	45	10	100
評価の特記事項	定期試験は実技試験、筆記試験でそれぞれ6割の取得が必要です。受講態度は身だしなみ・忘れもの等とします。						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』医歯薬出版(9,020円) ISBN:978-4-263-42863-4 『最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版』医歯薬出版(3,850円) ISBN:978-4-263-42839-9						
参考書・教材	『しっかり測定できる!歯周組織検査パーフェクトブック』クインテッセンス出版(3,520円) ISBN:978-4-7812-0039-2 その他参考資料は配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	口腔内診査(触診・洗浄・貼薬):口腔内の状況把握のため触診・洗浄・貼薬の方法を理解し、器具を操作する。						
2	口腔内診査(触診・洗浄・貼薬):生体への配慮をしながら器具を操作し相互に実習する。 [課題(復習)]器具の操作法と薬品の使用法をまとめる(1h)						
3	歯周組織診査:課題の確認 ポケット測定、歯肉出血度、付着歯肉幅の測定を理解する。						
4	歯周組織診査:ポケット測定、歯肉出血度、付着歯肉幅の測定を相互に実習する。 [課題(復習)]相互実習を振り返り生体への配慮、反省をまとめる(1h)						
5	歯周組織診査:課題の確認 PMA、歯の動揺度、歯間離開度の測定を理解する。						
6	歯周組織診査:PMA、歯の動揺度、歯間離開度の測定を相互に実習する。 [課題(復習)]相互実習を振り返り生体への配慮、反省をまとめる(1h)						
7	歯面研磨法:課題の確認 歯面研磨の基礎知識を理解し、マネキン上で歯面研磨のロールプレイ実習をする 合同実習(3年生):3年生との相互実習の中で患者の対応を学ぶ。						
8	歯石除去法(超音波スケーラー・エアスケーラーによる歯石除去法):超音波スケーラー・エアスケーラーの原理と特徴、操作方法を理解する。						
9	歯石除去法 歯面研磨法:超音波スケーラー・エアスケーラーを使用した歯石除去歯石除去と歯面研磨を相互に実習する [課題(復習)]相互実習を振り返り生体への配慮、反省をまとめる(1h)						
10	歯石除去法・歯面研磨法・歯周組織診査:ポケット測定、超音波スケーラー・エアスケーラーを使用した歯石除去、歯面研磨を相互に実習する。 [課題(復習)]相互実習を振り返り生体への配慮、反省をまとめる(1h)						
11	実技チェック:これまでの実習内容を、試験形式で技術の確認をする。						
12	結果・まとめ:課題の確認 基本技術の総復習をする。						
時間外での学修	相互実習を円滑に行うために、予習・復習をしっかり行って授業にのぞんでください。実習時間内で技術力が十分でないときには自主的に練習をしてください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:5時間】						
受講学生へのメッセージ	相互実習はグループで行うので欠席すると迷惑をかけます。欠席をしないように健康管理を十分行ってください。 オフィスアワーは研究室で木曜5限目です。						

【4H3S205】う蝕予防処置法		歯科衛生学科		1年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	阿尾 敦子・飯岡 美幸					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	飯岡：歯科医院歯科衛生士・9年					
授業内容	う蝕予防は各個人が日常生活で取り組んでいるが、う蝕をなくすまでにはいたっていない。そこで、う蝕の病因、プロセスを専門的に捉え、口腔診査、リスク検査を通してフッ化物の応用を中心としたう蝕予防法の基礎知識を理解する。					
授業方法	演習科目です。講義・示説で知識を理解した後、演習やグループで実験を行って知識の整理をします。					
到達目標	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・う蝕の成り立ちについて理解し、う蝕予防の考え方と予防方法を理解する。 ・口腔診査を行うための知識を理解し、診査記録をする。 ・う蝕活動性試験の種類、特徴を理解する。 ・フッ化物局所応用法について種類、使用薬剤を理解する。 				
	思考・判断・表現	・演習で得た知識をまとめ、個人のう蝕予防計画を立案する。				
	関心・意欲・態度	・う蝕予防処置法の知識を修得するために、積極的に学修に取り組むことができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	定期試験	70	-	-	-	70
	小テスト	15	-	-	-	15
	受講態度	-	-	-	10	10
	課題	-	5	-	-	5
	合計(点)	85	5	-	10	100
評価の特記事項	受講態度は学修の取組、課題提出状況等とします。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』医歯薬出版(9,020円) ISBN:978-4-263-42863-4 『歯科衛生士のための 齲蝕予防処置法 第2版』医歯薬出版(3,960円) ISBN:978-4-263-42241-0					
参考書・教材	その他資料は配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	う蝕予防処置とは：専門家によるう蝕予防処置の種類を理解する。 [課題(復習)]う蝕予防処置法の特徴を復習する(1h)					
2	口腔診査：課題の確認。口腔診査の知識を理解し、診査記号を記録する。 [課題(復習)]口腔診査記号を理解し、記録ができるように復習する(2h)					
3	う蝕予防の基礎：課題の確認。う蝕の病因、発症のプロセスを理解し、う蝕予防法が説明できる。 [課題(復習)]う蝕予防の基礎知識を復習する(2h)					
4	う蝕活動性試験法：課題の確認。各種う蝕活動性試験を行い、結果をまとめる。 [課題(他)]う蝕活動性試験結果を分析し、予後を考える(2h)					
5	う蝕活動性試験法：課題の確認。各種う蝕活動性試験を行い、結果を分析し予防法を考える。 [課題(他)]う蝕活動性試験結果を分析し、予防法をまとめる(2h)					
6	う蝕予防法の実践：課題の確認。フッ化物によるう蝕予防法を理解する。 フッ化物局所応用法：フッ化物局所応用法の種類、使用薬剤の知識、作用機序を理解する。 [課題(復習)]フッ化物応用法を整理し復習する(2h)					
7	フッ化物局所応用法：課題の確認。フッ化物溶液の至適量を実験をとおして理解する。 [課題(復習)]実験結果からフッ化物応用法の使用薬液量を把握する(2h)					
8	フッ化物局所応用法：課題の確認。フッ化物の急性中毒量の算出を演習をとおして理解する。 まとめ：う蝕予防処置の知識を整理しまとめる。 [課題(復習)]各種フッ化物の急性中毒量の算出法を復習する(2h)					
時間外での学修	[課題]の内容をテキストや配付プリントで復習し、理解を深めるようにしてください。【この科目の求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】					
受講学生へのメッセージ	個人やグループで演習・実習を行うので、健康管理に気をつけ欠席しないようにしてください。オフィスアワーは研究室で木曜5限目です。					

【4H4S201】歯科保健指導基礎		歯科衛生学科		1年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	藤澤 さち子・今井 藍子					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	今井：歯科医院勤務10年					
授業内容	歯科保健指導とは、「個人や集団を対象として、生活習慣や態度を望ましい歯科保健行動に変容させるために行われる専門的な指導」のことをいう。健康の増進をはかるための継続的な歯科保健指導業務を行うために、この授業では、歯科保健指導の目的や意義・必要性を理解することから始める。さらに、歯ブラシや補助清掃用具、歯磨剤の種類や用途の調査・検討、歯垢染色の方法や各種ブラッシング方法を学び、歯科保健指導を行うにあたり必要な基礎知識や技術を身につけることを目的としている。					
授業方法	講義・演習・実習を組み合わせた授業となる。自分自身の口腔衛生習慣を変容させることを目的としている。歯科予防処置関連実習、口腔衛生学、歯科衛生士概論など関連付けて学修する。					
到達目標	知識・理解	歯科保健指導の定義を説明できる 口腔内の付着物、沈着物を列挙できる 歯垢染色剤の使用法と特徴を説明できる 歯ブラシや補助清掃用具の種類と特徴を説明する 各種ブラッシング方法の特徴を説明できる 歯磨剤（フッ化物配合歯磨剤）について説明できる				
	思考・判断・表現	口腔清掃用具について特徴、用途、成分を示すことができる				
	技能	歯垢染色剤を用いて自分の口腔内を染色できる 各種ブラッシング方法を実施できる 各種補助清掃用具を操作できる				
	関心・意欲・態度	授業への積極的参加と自学自習ができる				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	40	-	-	-	40
	実技試験	-	-	20	-	20
	レポート	-	10	-	10	20
	受講態度	-	-	-	10	10
	履修カルテ	-	-	-	10	10
	合計(点)	40	10	20	30	100
評価の特記事項	受講態度は、課題の提出状況、身だしなみなどが評価されます。試験は実技・筆記共に6割以上を合格とします。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版株式会社(9,020円) ISBN:978-4-263-42863-4 『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第3版』全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版株式会社(6,160円) ISBN:978-4-263-42862-7					
参考書・教材	必要に応じてハンドアウトを配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	歯科保健指導の定義を説明できる(オリエンテーション 歯科保健指導とは) [課題(復習)]歯科保健指導の定義についてまとめる(1h)					
2	自分の口腔内の観察を実施する 観察ポイントを理解し、実際に器具を使用して口腔内の観察をする [課題(復習)]口腔内観察をレポートにまとめる(2h)					
3	第1・2回の課題の確認をする 歯ブラシの種類と特徴を説明する 自分にあった歯ブラシで口腔内を清掃することができる [課題(復習)]普段使用している歯ブラシの形態を調べる 自分の口腔にあった歯ブラシを選択する(2h)					
4	第3回の課題の確認をする 歯ブラシの知識について列挙する 毛先を使ったブラッシング方法の特徴を説明、実施する [課題(復習)]各種ブラッシング方法の手技を復習する 自分にあったブラッシング方法を選択する(2h)					
5	毛先を使ったブラッシング方法のまとめ 脇腹を使ったブラッシング方法の特徴を説明、実施する [課題(復習)]各種ブラッシング方法の手技を復習する 自分にあったブラッシング方法を選択する(2h)					
6	第4・5回の課題の確認をする 歯垢染色法について特徴を説明、操作する 第3回から第5回までに学んだことから、自分にあった口腔清掃方法を選択する [課題(復習)]自分にあった口腔清掃方法を実施しながら、磨き残しの箇所を観察する(2h)					
7	第6回の課題の確認をする 補助清掃用具の知識・技術を説明、操作する 歯ブラシだけでは除去できないプラークを取り除くための用具の種類と特徴、適応を説明する 各種補助清掃用具を操作する [課題(復習)]自分の口腔内で、補助清掃用具(デンタルフロス、タフトブラシ)の操作を身につける(2h)					
8	第7回の課題の確認をする 歯磨剤について特徴を説明できる 歯磨剤の特徴や使用感を調べる [課題(復習)]歯磨剤の成分について調査する(2h)					
時間外での学修	ここで学ぶことは、日常生活と関わりが深いものです。自分の口腔に興味を持ち、日常的に観察し、口腔清掃を実践することで知識・技術の復習ができます。毎回の復習ができているか確認するため、小テストを実施します。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】					
受講学生へのメッセージ	演習や実習が中心となるため、個人の積極的な授業への取り組みとグループ間の協力が大切です。欠席はその後の授業に大きく影響するため、体調管理をし欠席をしないように心掛けてください。オフィスアワーは藤澤：研究室(G405:G号館4F)金曜の5時限です。					

【4H4S202】保健指導法		歯科衛生学科		1年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	川島 智子・今井 藍子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	今井藍子：歯科医院歯科衛生士10年						
授業内容	歯科衛生過程とは、『対象者が抱えている問題を明確化し、問題の解決方法を計画し、介入していくために必要な一連の思考と行動のプロセス』のことです。この授業では、対象者の歯科衛生上の問題点を探るため、生活習慣や考え方、ニーズ、口腔内環境を正確につかむ能力を身につけることを目的としています。そのため、各種指数の算出・評価方法、また医療面接の考え方のもとに行う対象者の情報収集、SOAPによる書面化について学修します。						
授業方法	講義部分に関しては事前学習型授業で行います。演習や相互実習では、ロールプレイやグループワークを、保健指導チャートについては調査学習を中心に進めていきます。						
到達目標	知識・理解	歯と歯周組織(正常像・疾患像)と歯の付着物・沈着物について説明できる PCR、OHI、OHI-Sの特徴・評価方法と計算方法および計算ができる 情報収集の目的や得られる情報を説明できる 問診と医療面接のちがいを、目的を説明できる 相互実習での患者状況、実習内容、学んだことなどを具体的に記述できる					
	思考・判断・表現	相互で歯垢染色する際、歯垢染色剤の取り扱いに配慮できる 収集したデータをSデータとOデータに分類し、対象者の問題点を抽出できる 相互実習において術者の態度について改善点を指摘できる 対象者に適したブラッシング方法や歯ブラシ・補助清掃用具を選択できる 歯周疾患に関連した保健指導のためのチャートを系統立てて作成することができる インターネットを活用して保健指導チャートに必要な情報を収集することができる					
	技能	相互に歯垢染色とブラークチャート作成ができる 相互に健康調査票を用いた医療面接が実施できる 対象者のために選択した歯ブラシや補助清掃用具を正確に操作することができる					
	関心・意欲・態度	保健指導チャート作成に対して能動的に取り組むことができる 医療人としての自己管理や受講態度への配慮ができる 授業参加のために準備学習や課題を積極的に行うことができる					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		40	-	-	-	40
	課題レポート		10	5	-	-	15
	保健指導チャート		-	15	-	5	20
	実技(術者磨き)		-	5	-	-	5
	実技(ブラークチャート)		-	-	10	-	10
受講態度		-	-	-	10	10	
合計(点)		50	25	10	15	100	
評価の特記事項	保健指導チャート提出は単位取得のためには必須条件です。 実技試験では、ブラークチャートの正確さと術者磨きのテクニックを評価します。 受講態度は学修への取り組み、課題提出、身だしなみ・忘れ物などの状況の評価します。						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論(第2版)』医歯薬出版株式会社(9,020円) ISBN:978-4-263-42863-4 『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会のしくみ1 保健生態学(第3版)』医歯薬出版株式会社(6,160円) ISBN:978-4-263-42862-7 『歯科衛生士臨床のためのQuint Study Club 診査関連連1 しっかり測定できる! 歯周組織検査パーフェクトブック』クインテッセンス出版(3,520円) ISBN:978-4-7812-0039-2 『最新歯科衛生士教本 歯周病学(第2版)』医歯薬出版株式会社(3,850円) ISBN:978-4-263-42839-9						
参考書・教材	必要に応じてハンドアウトを配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
第1回	保健指導チャートの作成の目的・対象者、作成方法、インターネットからの情報収集について学修する。グループでスマートフォンを用いてテーマに合わせた情報を検索する。 [課題(その他)]歯と歯周組織(正常像・疾患像)、口腔内の付着物・沈着物について説明するために必要な図や写真などを集める。(2h)						
第2回	口腔衛生状態を評価するための指数(PCR)について学修する。歯と歯周組織(正常像・疾患像)、口腔内の付着物・沈着物、歯垢染色剤の取り扱いについて復習する。第1回の課題についてグループで情報を交換する。 [課題(復習)]PCRの評価方法と数値化について(1h) [課題(その他)]正常な歯と歯周組織、口腔内の付着物・沈着物についてチャートを作成する。歯肉炎と歯周炎の違いについてそれらを説明するために必要な図や写真などを集める。(2h)						
第3回	相互実習 口腔内観察(歯肉、加エラストレーション)と、ブラークチャートの作成をする。第2回の課題について確認する。 [課題(予習)]口腔内診査に必要な器具の操作、口腔内診査記号について確認しておく。(1h) [課題(その他)]歯周病の原因・ブラークレジメについてそれらを説明するために必要な図や写真などを集める。歯肉炎と歯周炎の違いについてチャートを作成する(2h)						
第4回	医療面接、口腔衛生に関連する生活習慣の情報を収集するための質問項目について学修する。口腔衛生状態を評価するための指数(OHI OHI-S)について学修する。PCRについて復習する。第3回の課題について確認する。 [課題(その他)]歯周病と生活習慣、全身疾患との関連についてそれらを説明するために必要な図や写真などを集める。歯周病の原因・ブラークレジメについてチャートを作成する。(2h)						
第5回	相互実習 医療面接と口腔内診査、ブラークチャート作成をする。第4回の課題について確認する。 [課題(予習)]医療面接、歯垢染色やブラークチャート作成、口腔診査について確認しておく。健康調査票を用いて情報収集する際の質問項目を考え、相互実習の原稿を作成する。(1h) [課題(復習)]相互実習の内容、収集したデータを記録する(1h) [課題(その他)]歯周病に関するブラークコントロールの種類と方法についてそれらを説明するために必要な図や写真などを集める。歯周病と生活習慣、全身疾患との関連についてチャートを作成する。(2h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
第6回	実際のデータをもとに、SOAPを用いた業務記録作成法について学修する。患者の問題点を抽出して、介入計画を立案する。第5回の課題について確認する。 [課題(予習)] 歯科衛生過程の基本的な考え方と6つの構成要素について確認しておく(1h) [課題(その他)] 歯周病に関するホームケアとプロフェッショナルケアについてそれらを説明するために必要な図や写真などを集める。歯周病に関するブラークコントロールの種類と方法についてチャートを作成する。(2h)
第7回	実技チェック プラークチャート作成、術者磨き(ブラッシング方法と補助清掃用具の取り扱い) 第6回の課題について確認する。 [課題(予習)] 実技チェックに向けて、歯垢染色技術、術者磨き(ブラッシング方法と補助清掃用具の取り扱い)について確認しておく(1h) [課題(その他)] 歯周病に関するホームケアとプロフェッショナルケアについてチャートを作成する。(2h)
第8回	第8回 第1～7回のおまとめ 保健指導チャートの仕上げ [課題(その他)] 保健指導チャートの仕上げを行う(1h)
時間外での学修	事前学習型授業となります。各回の実習での準備・課題をしっかりと行ってください。保健指導用チャートは、時間外での調査学習が主となります。[この科目の求める望ましい授業外での総学修時間：22時間]
受講学生へのメッセージ	正確に口腔内の状況を判断できる力を身につけるようにしてください。グループ演習や相互実習が中心となりますので、各自責任をもって実習のための準備をしてください。課題は指定された日時に提出してください。保健指導チャートの提出は単位取得のための必須要件です。必ず期限を守って提出してください。オフィスアワーはG405で木曜日5限目です。

【4H4S104】発達口腔保健学		歯科衛生学科		1年後期		
		1単位	必修	講義	15時間	
教員	藤澤 さち子・久本 たき子					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	久本：歯科医院・口腔保健センター歯科衛生士・6年					
授業内容	本講は、ライフステージ別の妊産婦期、新生児期・乳児期、幼児期の一般的特徴と口腔の特徴を理解し、対象者に応じた歯科保健指導および食事指導が行えるように、歯科的特徴や問題点を確認し、歯科保健対策を考えていきます。また、妊産婦期から幼児期までの各ライフステージの歯科保健対策における歯科衛生介入について学びます。					
授業方法	講義とグループでの演習形式で行います。					
到達目標	知識・理解	口腔の健康支援ができるように、妊産婦期・新生児期・乳児期・幼児期の特徴と各歯科保健対策について説明できる。				
	思考・判断・表現	課題レポートを行い、その内容について説明できる。				
	関心・意欲・態度	医療人として自己の体調管理ができ、提出物を期限内に提出できる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	定期試験	80	-	-	-	80
	小テスト	5	-	-	-	5
	レポート	-	5	-	-	5
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	85	5	-	10	100
評価の特記事項	指定されたレポートの提出で思考・判断・表現の評価を行います。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版』全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版株式会社(9,020円) ISBN:978-4-263-42863-4 『歯と口の健康百科』医歯薬出版株式会社(3,960円) ISBN:978-4-263-44387-3					
参考書・教材	最新歯科衛生士教本『栄養と代謝』医歯薬出版株式会社 『食品成分表2020』女子栄養大学出版社					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	<総論>ライフサイクル論とライフステージの区分および歯科衛生介入について学ぶ。 母子歯科保健の意義について理解する。 [課題(復習)]ライフステージの区分、母子歯科保健の意義について復習する。(3h)					
2	ライフステージにおける歯科衛生介入1 <妊産婦期 > 妊産婦期の一般的特徴と口腔の特徴について学ぶ。 [課題(復習)]妊産婦期の一般的特徴と口腔の特徴について復習する。(3h)					
3	ライフステージにおける歯科衛生介入1 <妊産婦期 > 妊産婦期の栄養と食生活指導について学ぶ。 [課題(復習)]妊産婦期の栄養と食生活指導について復習する。(4h)					
4	1～3回目までの課題について確認する。 ライフステージにおける歯科衛生介入2 <新生児期・乳児期 > 新生児期・乳児期の一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健指導について学ぶ。 [課題(復習)]新生児期・乳児期の歯科保健行動、離乳期の食生活指導について復習する。(4h)					
5	ライフステージにおける歯科衛生介入3 <幼児期 > 幼児期の一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健指導について学ぶ。 [課題(復習)]幼児期の一般的特徴と口腔の特徴、歯科保健指導について復習する。(4h)					
6	ライフステージにおける歯科衛生介入3 <幼児期 > 幼児期の食事指導(1日の栄養摂取と間食摂取)について演習を行う。 [課題(復習)]幼児期の食事指導について復習する。(4h)					
7	ライフステージにおける歯科衛生介入3 <幼児期 > 幼児期の歯科保健指導 寝かせ磨きのポイントを理解し相互実習をする。 [課題(復習)]寝かせ磨きのポイントを復習し、自己の改善点を検討しまとめる。(4h)					
8	4～7回目までの課題について確認する。 ライフステージ(妊産婦期～幼児期)における歯科衛生介入について重要な点を修得する。 [課題(復習)]ライフステージ(妊産婦期～幼児期)における歯科衛生介入について復習する。(4h)					
時間外での学修	課題レポート：「市販のお菓子と飲料」について文献で調べ内容をまとめ提出すること。提出時期は、初回の講義で連絡します。提出期限を守りましょう。()内の学修時間を目安にして授業外での学修も充実させましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】					
受講学生へのメッセージ	口腔から全身をとらえ対象者に健康づくりを支援していく立場になることを十分に理解して欲しいです。また、演習時はグループ別で取り組むこともあるため、各自が主体的な態度で臨んで欲しいです。オフィスアワーは、藤澤：研究室(G405：G号館4F)火曜日5時限、久本：研究室(G304：G号館3F)木曜日5時限です。授業で不明な点があれば質問に来てください。					

【4H4S208】コミュニケーション演習		歯科衛生学科		1年後期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	石川 隆義					
資格・制限等	特になし					
実務家教員						
授業内容	歯科医療において歯科衛生士は、患者やその家族はもちろんの事、歯科医師、歯科技工士、他の医療・保健・福祉分野の様々な職種の方と場面や状況に応じたコミュニケーションをとることが必要となってくる。そこで、本授業では患者やその家族とのコミュニケーション、チーム医療におけるコミュニケーションの基本的知識やその技法等について修得できる授業内容とする。					
授業方法	歯科衛生士にとって対面コミュニケーションが重要であり、学生相互によるロールプレーによるシミュレーション実習も多く取り入れた授業方法とする。また小グループでの討論や発表活動を頻繁に取り入れた授業展開とする。特に患者役等の相手の立場になった時の気づきを重視する。					
到達目標	知識・理解	・患者やその家族をはじめ、歯科医師、歯科技工士、他の医療・保健・福祉分野の様々な職種の方と場面や状況に応じたコミュニケーションをとることの重要性を述べるができる。 ・チーム歯科医療の意義や成功するための条件、実施上の問題点について述べるができる。				
	技能	ロールプレーを用いたシミュレーション実習を行うことにより、コミュニケーション技法について体験的に理解ができる。				
	関心・意欲・態度	患者側の立場を理解し、歯科衛生士としての基本的対応が自らできる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	レポート	60	-	-	-	60
	発表	-	-	20	-	20
	受講態度	-	-	-	20	20
	合計(点)	60	-	20	20	100
評価の特記事項	評価は授業内におけるレポート、発表および学修への取組状況をみた受講態度によって総合的に評価する。					
テキスト	特に無し。					
参考書・教材	毎回授業時に資料を配付する。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	コミュニケーションとは何か。課題確認のため、レポートを提出。 [課題(復習)]あなた自身の日常の人間関係の取り方についてまとめる。(1h) 以下の表記で各回1コマ毎の記載をしているが、実際の授業は2コマ続きであり以下のような授業内容構成となる。					
2	コミュニケーションとは何か。課題確認のため、レポートを提出。 [課題(復習)]あなた自身の日常の人間関係の取り方についてまとめる。(1h)					
3	2者関係について考えてみよう。課題確認のため、レポートを提出。 [課題(復習)]ロールプレーを行い、自分の心の動きやコミュニケーションの取り方についてまとめる。(1h)					
4	2者関係について考えてみよう。課題確認のため、レポートを提出。 [課題(復習)]ロールプレーを行い、自分の心の動きやコミュニケーションの取り方についてまとめる。(1h)					
5	グループ・ダイナミクスについて考えよう。課題確認のため、レポートを提出。 [課題(復習)]グループ・ワークを行い、自分の心の動きやグループ全体の動きの流れについてまとめる。(1h)					
6	グループ・ダイナミクスについて考えよう。課題確認のため、レポートを提出。 [課題(復習)]グループ・ワークを行い、自分の心の動きやグループ全体の動きの流れについてまとめる。(1h)					
7	成人患者とのコミュニケーションについて考えよう。課題確認のため、レポートを提出。 [課題(復習)]ロールプレーによる歯科衛生士役、患者役をやった時の気づきについてまとめる。(1h)					
8	成人患者とのコミュニケーションについて考えよう。課題確認のため、レポートを提出。 [課題(復習)]ロールプレーによる歯科衛生士役、患者役をやった時の気づきについてまとめる。(1h)					
9	小児患者の保護者とのコミュニケーションについて考えよう。課題確認のため、レポートを提出。 [課題(復習)]ロールプレーによる歯科衛生士役、保護者役をやった時の気づきについてまとめる。(1h)					
10	小児患者の保護者とのコミュニケーションについて考えよう。課題確認のため、レポートを提出。 [課題(復習)]ロールプレーによる歯科衛生士役、保護者役をやった時の気づきについてまとめる。(1h)					
11	チーム歯科医療について(1)情報収集 [課題(準備)]チーム歯科医療を行う時の課題について文献・資料を集め、発表の準備をする。(1h)					
12	チーム歯科医療について(1)情報収集 [課題(準備)]チーム歯科医療を行う時の課題について文献・資料を集め、発表の準備をする。(1h)					
13	チーム歯科医療について(2)発表・討議。11-12の課題確認のため、個人発表を行う。 [課題(準備・復習)]チーム歯科医療を行う時の課題について文献・資料を集め発表の準備をする。 チーム歯科医療の課題についてグループ毎に発表し、討議を行った事をまとめる。(1h)					
14	チーム歯科医療について(2)発表・討議。11-12の課題確認のため、個人発表を行う。 [課題(準備・復習)]チーム歯科医療を行う時の課題について文献・資料を集め発表の準備をする。 チーム歯科医療の課題についてグループ毎に発表し、討議を行った事をまとめる。(1h)					
15	チーム歯科医療についてのまとめ。13-14の課題確認のため、レポートを完成させ提出を行う。 [課題(復習)]チーム歯科医療について多角的・総合的に検討し、レポート作成を行う。(1h)					
時間外での学修	各回の授業(2限続き)の課題に関して図書・WEB等で予習を行い、授業後は配付プリント等を復習し理解を深める事。自分で問題解決できない場合は、石川研究室(G204)まで問題点を整理して聞きにきてください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】					

受講学生への
メッセージ

日常の人間関係をとっている時の自分の心の動き、対人関係の取り方のパターン、集団の動きの流れなどをよく見つけ、コミュニケーションについて意識して考えておく事。
オフィスアワーは、G204で毎週木曜日5時限目の16：20から17：30です。

【4H5S101】診療補助総論		歯科衛生学科		1年前期		
		2単位	必修	講義	30時間	
教員	関谷 智子					
資格・制限等	特になし					
実務家教員						
授業内容	歯科衛生士業務のひとつである歯科診療の補助について理解し、歯科臨床における安全な医療提供のための環境づくり、歯科医療の現場で必要とされる感染予防対策について理解を深めていきます。また、歯科衛生士は、歯科臨床の場で診療内容ごとに数多くの歯科材料を取り扱います。そのため、歯科材料の基本的性質を知ることが正しい操作方法の習得に繋がることから、その基礎知識についても学んでいきます。					
授業方法	講義中心です。授業内容によっては事前に配付する課題を調べてきて、課題についての発表・検討を行います。					
到達目標	知識・理解	歯科衛生士が行う歯科診療補助について説明できる。 歯科医療における感染予防対策について理解し、その方法の基本的知識を修得できる。 医療廃棄物の区分を知り、歯科医院からでる廃棄物の廃棄方法を選択できる。 歯科診療室で使用される歯科材料の基本的性質や素材について理解できる。				
	思考・判断・表現	感染予防対策の各種方法を感染リスクと結びつけ、安全で信頼される歯科医療提供を考えることができる。				
	関心・意欲・態度	歯科衛生士の歯科診療補助を正しく理解し、常に実践と結びつけた積極的学修態度で取り組むことができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	80	-	-	-	80
	レポート	-	10	-	-	10
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	80	10	-	10	100
評価の特記事項	筆記試験は定期試験と授業内で実施する復習テストです。受講態度は授業の取り組み、学修記録の内容、提出状況から総合的に判断します。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版』医歯薬出版(6,600円) ISBN:978-4-263-42840-5 『歯科医療における院内感染予防対策マニュアル&研修テキスト』医歯薬出版(4,180円) ISBN:978-4-263-44243-2 『最新歯科衛生士教本 歯科材料』医歯薬出版(3,850円) ISBN:978-4-263-42851-1					
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	歯科診療補助と歯科衛生士の役割(ガイダンス、診療の補助を行う医療職種とその業務を学び、歯科診療補助の法的解釈を学ぶ) [課題(復習)]歯科診療補助業務の歯科衛生士法における法的位置づけについてまとめる。(2~3h)					
2	歯科診療室の基礎知識、医療安全について(歯科診療室の環境や設備について説明し、歯科診療室で行われている医療安全の実例について学ぶ) [課題(復習)]学んだ内容を復習し、医療安全について考える。(3~4h)					
3	感染予防対策(1~2の課題の確認、感染を成立させる要因について学ぶ) [課題(復習)]学んだ内容を復習し、感染予防の必要性についてまとめる。(5~6h)					
4	歯科医療における感染予防対策(事前配布した課題を活用して感染予防における標準予防策について理解を深める) [課題(予習)]配付した課題を行い、感染予防対策の具体的内容についてまとめる。(4~5h)					
5	感染リスクとその対策、各種滅菌・消毒法の種類と分類(リスクアセスメントに基づく感染症対策の実例を学ぶ。感染症対策にかかわる滅菌・消毒法の種類について説明する) [課題(復習)]学んだ内容を復習し、感染リスクとその対策についてまとめる。(4~5h)					
6	各種滅菌・消毒法の特徴と注意点(各種滅菌・消毒法をおこなう際の注意点について説明し、歯科用器材に応じた滅菌・消毒法の選択について学ぶ) [課題(復習)]学んだ内容の復習。熱、温湯、熱湯による消毒についてまとめる。(3~4h)					
7	薬液消毒について(3~6の課題の確認、消毒剤有効活用のための留意点、薬液消毒の方法について学ぶ) [課題(復習)]学んだ内容を復習、消毒剤の希釈と保管方法についてまとめる。(5~6h)					
8	各種消毒剤の種類と特徴(薬液消毒に使用される消毒剤の種類や用途とその区分について学ぶ) [課題(復習)]消毒剤の抗微生物スペクトルを基に、消毒剤の選び方をまとめる。(4~6h)					
9	医療従事者の感染防御について(1)手指消毒(手指消毒の方法とその留意点、使用される消毒剤について学ぶ) [課題(復習)]手指消毒の手順を正確に覚える。手指消毒に用いられる消毒剤についてまとめる。(4~5h)					
10	医療従事者の感染防御について(2)感染防護具(マスク・グローブの種類や使用上の留意点について学ぶ) [課題(復習)]学んだ内容を復習し、医療従事者の感染防御の実践についてまとめる。(4~5h)					
11	使用済み器具の感染予防対策の流れ(7~10の課題の確認、使用済み器材処理の各ステップごとの内容や留意点について学ぶ) [課題(復習)]ハイリスク患者の使用済み器材の取り扱いについてまとめる。(5~6h)					
12	診療室から出る廃棄物の区分と処理方法(廃棄物の区分を知り、医療廃棄物の分類と分別について学ぶ) [課題(復習)]学んだ内容を復習し、歯科診療において排出される廃棄物の廃棄方法の流れについてまとめる。(3~4h)					
13	歯科材料の基礎知識(1)歯科材料の分類と所要性質(事前配布した課題を活用して、歯科材料としての必要条件と機械的性質・物理的性質について学ぶ) [課題(予習)]歯科材料の基本的性質について事前に配付した課題をまとめ、性質に出てくる用語を理解する。(5~6h)					
14	歯科材料の基礎知識(2)歯科診療の流れと歯科材料(歯科材料の化学的性質や素材について学び、う蝕の分類に基づく診療のステップごとに使用される歯科材料について説明する) [課題(復習)]歯科材料の素材について理解を深める。(5~6h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
15	<p>歯科材料：印象材（13～14の課題の確認、印象材の使用目的を説明し、印象材の種類・用途・特徴について学ぶ） [課題（復習）]各種印象材の組成や特徴をまとめ、用途別に分類する。（4～5h）</p>
時間外での学修	<p>講義内容は、概ね『歯科診療補助論 第2版』のテキストに則っているため、予習して受講するようにして下さい。また、課題の確認は復習テストを実施します。授業があったその日にテキストや配付されたプリント等で課題をおこない、理解を深めるようにして下さい。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間・60時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>臨床において倫理に則った的確な判断や行動がとれることを目標に、常に実践を意識して受講して下さい。オフィスアワーは授業終了後、講義をした教室で12：15～12：50です。</p>

【4H5S402】診療補助基礎		歯科衛生学科		1年前期		
		1単位	必修	実習	45時間	
教員	水嶋 広美・関谷 智子・藤澤 さち子					
資格・制限等	特になし					
実務家教員						
授業内容	歯科衛生士として歯科診療の補助・介助を行うにあたり、診療が安全に行われるための環境整備や、器械・器具のメンテナンスについて学びます。また、現在の歯科医療において、共同動作は診療を効率的に行うために必要不可欠なものです。この授業では、共同動作について学生同士が相互に患者・補助者・術者を体験することによって、それぞれの立場を理解するとともに、共同動作に必要な基本的知識の理解や医療事故・感染対策についても考え、多岐にわたる診療業務の知識と手技を修得します。					
授業方法	実習科目です。基礎知識や実習要領を説明し、教員によるデモンストレーションの後、自ら知識、技術を修得します。					
到達目標	知識・理解	診療室で使用される歯科用ユニットの構造を知り、その管理ができる。標準予防策を理解し、感染予防を考えた行動ができる。歯科衛生材料の種類、用途とその作製方法を述べるができる。共同動作の概念、パキュームについて理解することができる。				
	技能	歯科衛生材料の作製ができる。手指消毒、ユニット消毒など感染予防対策の実際ができる。水平位診療における共同動作のポジショニング、パキューム操作ができる。				
	関心・意欲・態度	歯科衛生士の歯科診療補助を正しく理解し、常に実践と結びつけた積極的学修態度で取り組むことができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	40	-	-	-	40
	実技試験	-	-	40	-	40
	製作物	-	-	5	-	5
	レポート	5	-	-	-	5
	受講態度	-	-	-	10	10
合計(点)	45	-	45	10	100	
評価の特記事項	筆記試験は定期試験と授業時間内でおこなう復習テストです。実技試験は定期試験と授業時間内でおこなう実技試験です。受講態度は授業に対する取り組み、身だしなみ、実習記録の提出状況などから総合的に判断します。筆記試験、実技試験はそれぞれ6割の取得が必要です。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版』医歯薬出版(6,600円) ISBN:978-4-263-42840-5 『最新歯科衛生士教本 歯科機器』医歯薬出版(3,520円) ISBN:978-4-263-42850-4					
参考書・教材	『歯科医療における 院内感染予防対策マニュアル&研修テキスト』医歯薬出版(4,180円) ISBN:978-4-263-44243-2					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	歯科用ユニットの構造と各部の名称(受講ガイダンス、歯科用ユニットの構造と各部の名称について) [課題(復習)]歯科用ユニットの各部の名称を正確に覚える。(1h)					
2	歯科用ユニットの操作方法、歯科衛生材料(1)各種綿球作製(歯科用ユニットの操作法を学ぶ。歯科衛生材料の種類や使用目的、綿球の作製方法を学ぶ) [課題(復習)]学んだ内容の復習。使用目的別綿球の作製練習。(1h)					
3	手指消毒 マスク・グローブの着用(1~2の課題の確認、衛生的手指消毒について、手指の汚れの部位確認、手洗いミスの起こりやすい部位の確認について) [課題(復習)]手洗いミスの起こりやすい部位についての観察レポートを完成させる。手指消毒に使用される消毒剤についてまとめる。(1h)					
4	器材別滅菌・消毒法(実習時のユニットやワゴンの消毒法、器械を使った滅菌消毒法や滅菌済み器具の取り扱い法について) [課題(復習)]滅菌器の特徴や使用上の注意点、必要器材についてまとめる。ユニットの消毒手順と消毒時の注意点をまとめ実践できるようにする。(1h)					
5	相互実習の前準備と後片付け 患者誘導(相互実習を行う際の、実習前準備と後片付けの手順と、実習時の動線について) [課題(復習)]学んだ内容を復習し、手順をまとめ実践できるようにする。(1h)					
6	手指消毒・ユニット消毒試験、歯科衛生材料(2)小折ガーゼ作製(手指消毒・ユニット消毒が確実に習得できているか確認する。小折ガーゼの作製方法について) [課題(復習)]手指消毒・ユニット消毒の手順と注意点を確認する。小折ガーゼの作製方法を復習し、その作製をおこなう。(1h)					
7	パキュームテクニックの基本(1)マネキン実習(3~5の課題の確認、共同動作の基本、パキュームについて、パキューム操作の基本や挿入位置、手順について) [課題(復習)]共同動作の概念についてまとめる。パキュームの挿入目的や挿入禁忌部位などを復習し、パキューム挿入基本位置への挿入手順を模型上で練習する。(2~3h)					
8	パキュームテクニックの基本(2)相互実習(相互実習の意義について、学生相互によるパキューム挿入位置の確認、挿入手順について) [課題(復習)]事前に相互実習前準備・後片付けについてその要領を確認しておく。相互実習におけるパキューム操作の手順・要領、生体に対する配慮についてまとめる。(1h)					
9	部位別パキュームテクニック(1)マネキン実習(7~8の課題の確認、操作部位別パキュームの挿入位置や操作手順、使用器械について) [課題(復習)]操作部位別パキューム挿入位置や挿入手順をまとめ、模型上で確認する。(2~3h)					
10	部位別パキュームテクニック(2)相互実習(学生相互での操作部位別パキュームの挿入位置や操作手順について) [課題(復習)]相互実習における操作部位別パキューム挿入位置や挿入手順と注意点、反省点をまとめる。(1h)					
11	歯科用ユニットのメンテナンス(使用しているユニットのメンテナンス法についてなど) [課題(復習)]ユニット各部のメンテナンス法を、メンテナンス時期ごとに分けまとめる。(1h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
12	<p>バキュームテクニック復習、歯科衛生材料（小折ガーゼ）作製（9～10の課題の確認、バキューム挿入位置の確認やスリーウェイシリンジの使い方の復習、歯科衛生材料作製のチェックポイントを確認しながら作製する）</p> <p>【課題（復習）】バキューム挿入の基本位置、挿入手順と歯科衛生材料の作製について復習しまとめる。（2～3h）</p>
時間外での学修	<p>各回実習ごとの目標を事前に掲示します。目標が達成できるよう予習復習を怠らないようにしましょう。また、授業時間内だけでの実技の修得は難しいため、授業時間外に練習を重ねて確実に身につけるようにしましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>後半の相互実習に向けて、実習内容を積み重ねていきます。欠席はしないよう健康管理には十分注意してください。毎回の実習が充実したものとなるよう積極的に取り組んでください。</p> <p>オフィスアワーは、研究室（G306：G号館3F）で、毎週金曜日 16：20から17：00です。</p>

【4H5S403】診療補助基礎		歯科衛生学科		1年後期		
		1単位	必修	実習	45時間	
教員	水嶋 広美・関谷 智子・藤澤 さち子					
資格・制限等	特になし					
実務家教員						
授業内容	歯科診療では、数多くの歯科材料を取り扱います。その材料を適切な状態に保ち治療に役立つようにするためには、材料の性質を理解し、材料の取り扱いに必要な器械、器具の正確な知識と熟練した手技が必要です。主にこの授業では、学生相互に歯型を採り模型を作製する中で、使用する材料や器具の取り扱いを体得します。また、術者・患者を体験することで、生体に対する配慮についても学びます。					
授業方法	実習科目です。基礎知識や実習要領を説明し、教員によるデモンストレーションをおこなった後に、自ら知識、技術を修得します。成果として製作物の作製もおこないます。					
到達目標	知識・理解	印象材の種類、分類、用途、特徴について説明できる。 模型材料としての石膏の種類用途、取り扱いについて説明できる。 各種材料を使用目的に応じて選択することができる。 環境条件に適した材料の取り扱いを考えることができる。 生体への配慮や言葉かけ、偶発事故への対応について考えることができる。				
	技能	印象材、石膏を使って石膏模型を作製することができる。 スタディモデルを完成することができる。 取り扱う材料に適した器材を準備し、その材料を作り上げることができる。				
	関心・意欲・態度	医療人としての身だしなみや自己管理ができ、医療現場にいることを意識した態度で授業に取り組むことができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	40	-	-	-	40
	実技試験	-	-	30	-	30
	製作物	-	-	15	-	15
	レポート	5	-	-	-	5
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	45	-	45	10	100
評価の特記事項	筆記試験は定期試験と授業時間内でおこなう復習テストです。実技試験は定期試験と授業時間内でおこなう実技試験です。受講態度は授業に対する取り組み、身だしなみ、実習記録の提出状況などから総合的に判断します。筆記試験、実技試験はそれぞれ6割の取得が必要です。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版』医歯薬出版(6,600円)ISBN:978-4-263-42840-5 『最新歯科衛生士教本 歯科材料』医歯薬出版(3,850円)ISBN:978-4-263-42851-1					
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	アルジネート印象材の取り扱い(1)アルジネート印象材の練和(受講ガイダンス、アルジネート印象材の練和と操作、トレーの盛り上げについて習得する) [課題(復習)]アルジネート印象材の特徴をまとめる。アルジネート印象材の練和練習を行う。テキストを参考に、配布された印象採得手順プリントの空欄を埋める。(2~3h)					
2	アルジネート印象材の取り扱い(2)模型上での印象採得(アルジネート印象材を使って、顎模型にて印象採得をおこなう) [課題(復習・予習)]上下顎の印象採得の手順・注意点をまとめ、顎模型上にて印象採得の練習を行う。テキストを参考に、配布された石膏模型作製手順プリントの空欄を埋める。(2~3h)					
3	石膏模型作製(マネキン上にて上下顎の印象採得をおこない、印象面に石膏を注入して模型を作製する) [課題(復習)]石膏の取り扱い手順についてまとめる。(1h)					
4	スタディモデル作製(1)下顎模型作製(1~2の課題の確認、相互に下顎の印象採得をおこない下顎石膏模型を作製する) [課題(復習)]相互実習での下顎印象採得から石膏模型の作製手順と実習の反省をまとめる。(2~3h)					
5	スタディモデル作製(2)上顎模型作製(3の課題の確認、相互に上顎の印象採得をおこない、上顎石膏模型を作製する) [課題(復習)]相互実習での上顎印象採得から石膏模型の作製手順と、実習の反省をまとめる。(2h)					
6	スタディモデル作製(3)上下顎模型作製(相互に上下顎の印象採得をおこない、石膏模型を作製する) [課題(復習)]相互実習での印象採得から石膏模型の作製手順と、実習の反省をまとめる。(1h)					
7	アルジネート印象材練和試験 石膏・その他の印象材講義(石膏・印象材の種類や特徴、器材について) [課題(復習・予習)]アルジネート印象材の練和手技を磨く。印象材のプリントをまとめる。配布された歯科材料:石膏・その他の印象材のプリントの空欄を埋める(1~2h)					
8	寒天印象材とアルジネート印象材による連合印象(連合印象1回法を実習する) 寒天印象材講義(寒天印象材の種類や特徴、取扱う器材について) [課題(予習)]テキストを参考に配布された歯科材料:寒天印象材のプリントの空欄を埋める(2h)					
9	模型余剰石膏削除(余剰石膏削除に使用する器械の取り扱い、余剰石膏の削除法について) [課題(復習)]余剰石膏削除に使用する器械の取り扱い、余剰石膏の削除法についてまとめる。(1~2h)					
10	石膏模型余剰石膏削除 印象採得の練習 [課題(復習)]印象採得の試験に向けて復習を行う。余剰石膏削除時の注意点についてまとめる(2h)					
11	石膏模型台付け(これまでで作製してきた石膏模型に台を付ける。) スタディモデル仕上げ(台付けした石膏模型の最終仕上げをおこなう) [課題(復習・製作)]台付けの手順についてまとめ、スタディモデルの最終仕上げとラベリングをおこなう。(2h)					
12	印象採得試験(マネキン) 実習清掃 [課題(復習)]印象採得の試験に向けて、手順、手技操作を復習する。(2h)					
時間外での学修	各実習ごとの目標を事前に掲示します。目標が達成できるよう予習復習は怠らないようにしてください。また、授業時間内だけの技術の修得は難しいため、積極的に時間外に練習するようにしましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:20時間】					

受講学生への
メッセージ

歯科材料の物理的・化学的特性を理解したうえで歯科材料を取り扱うことができるよう、知識と技術をバランスよく修得することが大切です。相互実習においては、生体に対する配慮に十分心掛けてください。オフィスアワーは、研究室（G306：G号館3F）で、毎週金曜日 16：20から17：00です。